

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業分)

地域版認知症希望大使の普及促進と 活動支援に関する調査研究事業

報告書

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

令和5(2023)年3月

目 次

事業要旨	i-ii
第1章 事業概要	1
1. 事業背景と目的.....	1
2. 検討委員会の設置.....	1
3. 事業項目.....	3
4. 事業構成.....	5
5. 希望大使任命状況	6
第2章 事業経過・結果	7
1. 検討委員会	7
2. 希望大使任命・活動状況実態調査の結果	20
1) 実態調査実施概要.....	20
2) 調査結果.....	23
(1) 都道府県調査	23
(2) 希望大使設置都府県管内市町村等調査	46
(3) 希望大使本人調査.....	58
(4) 県担当者意見交換会.....	65
3. 地域版希望大使交流会の開催	73
4. 地域版希望大使の任命と活躍の手引き／地域での活動事例集の作成.....	78
5. 希望大使 活動推進サイト(常設型)の設置	79
第3章 地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援(委員会提案)	80
参考資料.....	84
調査票① 希望大使設置都府県調査票	
調査票② 希望大使未設置道府県調査票	
調査票③ 希望大使設置都府県管内市町村等調査票	
調査票④ 希望大使本人調査票(事例収集依頼)	
ご参考:「認知症本人大使『地域版希望大使』の設置について」	
(令和2年3月24日老発0324第2号厚生労働省老健局長通知)(抄)	

研究事業全体の概要

「認知症施策推進大綱」のもと、「地域版認知症希望大使」が任命されているが、希望大使の活動・活躍の好事例等は整理されておらず、本人発信のあり方、任命後の取組みを模索している自治体は多い。

任命者(自治体)同士の情報共有を含めた希望大使同士のネットワーク化により、実際の活動に資する情報の共有や取組みのブラッシュアップを図ることで、希望大使任命の趣旨及び各地での活動(取組み)を全国に普及するとともに、希望大使の活動の更なる活性化・質の向上を図ることを目的として、以下を実施した。

1. 希望大使 任命・活動状況実態調査
2. 「地域版希望大使交流会」の開催
3. 「地域版希望大使の任命と活躍の手引き／地域での活動事例集」の作成
4. 「希望大使 活動推進サイト(常設型WEBコンテンツ)」の設置

1. 地域版希望大使 任命・活動状況実態調査

【都道府県調査】

- ①希望大使設置都府県対象:希望大使の活動状況及び活動の効果・課題等に関する調査を実施
実施方法:電子メール添付による書面送受、及びヒアリング(情報照会) 対象:14都府県
- ②希望大使未設置道府県対象:希望大使設置についての今後の方針・計画・課題等に関する調査を実施
実施方法:電子メール添付による調査票送受、必要時追加情報照会 対象:33道府県

【希望大使設置都府県管内市町村等調査】

- 市町村事業等への希望大使の参加・協働、自地域での本人発信状況や課題に関する調査を実施
実施方法:電子メール添付による調査票送受(都府県から回付) 対象:520区市町村

【希望大使本人調査】

- ①ヒアリング調査(動画収録等):各地の取組み等取材に合わせて実施/8都府県13名、市任命大使1名、国大使5名
- ②活動等調査(事例収集):各大使のメッセージ、日々の暮らしの様子、活動状況等を写真と共に提供依頼/38名

●主な調査結果:詳細は「第2章」(P.20以降)

◆任命済都府県

- 回答数:14/14(100%)
○事業プロセスで認識された課題(一部抜粋)
・候補者選定の課題:大使候補者が少ない、本人が情報発信できる状況にない 等
・家族からの同意をどう得るか 等
・事業実施に関する課題:費用、依頼する事業内容 等
・事業に関する関係者間の共通理解に関する課題

◆任命済都府県管内市町村

- 回答数:372/520(71.5%)
○「希望大使」の参加による参加者の変化(N=88)

認知症本人に対する見方が変わった	84(95.5%)
認知症に対する関心が高まった	78(88.6%)
認知症に対する考え方が変わった	74(84.1%)

○現在、自地域内の本人とともに取り組んでいる事業の有無

ある	147(39.5%)	内、認知症カフェ: 93(63.3%) 本人ミーティング: 67(45.6%)
ない	222(59.7%)	
回答なし	3(0.8%)	

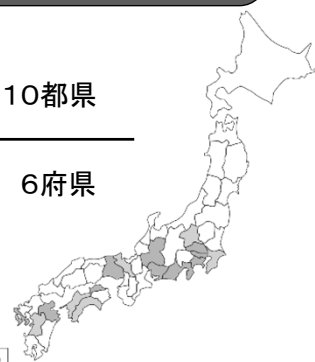
◆未設置道府県

- 回答数:33/33(100%)
○任命(計画)を進めるうえでの課題(一部抜粋)
・大使候補者が見つからない、打診するが断られてしまう
・選任プロセスが不明
・症状が進行した時の大使交代のプロセスが不明
・本人・家族の理解を得ることの困難さ
- 地域で活動している本人やその活動に関する情報の把握

ある	18(54.5%)
ない	12(36.4%)
計画中	2(6.1%)
回答なし	1(3.0%)

地域版希望大使の任命状況

令和2~3年度 任命(委嘱)	10都府県
令和4年度 任命(委嘱)	6府県



2. 地域版希望大使交流会の開催

各地域の希望大使同士の交流促進、自治体間の情報共有とネットワークづくりを目的とした交流会を開催



日時： 令和4年10月3日(木)
 開催方法：オンライン会議(zoom)
 * Youtubeライブ配信実施
 参加者：希望大使30名(任命済13都県、
 任命予定1府、国大使含む)他

<主な内容>
 ・希望大使 自己紹介(全体)
 ・交流タイム(5グループ)
 * zoomブレイクアウトルームにて

※WEBコンテンツ化し、当法人
 ホームページで公開

交流タイム



3. 希望大使活躍の手引き・活動事例集の作成

(主な内容)

- 希望大使の活動事例
- ・次に続く人へのメッセージ
- ・大使になったきっかけ
- ・希望大使の日々の暮らし、活動紹介 等

- 地域版希望大使の任命と活躍に向けたポイント



4. 希望大使活動推進サイト(常設型)の設置

手引き・事例集と対照性のあるWEBコンテンツ(常設型)

<動画>

<希望大使からのメッセージ>

どうよう 認知症希望大使の 能任 智子さん

次に続く人へのメッセージ
 今まで通り、普通に暮らして、元気にしています。ただそれだけで、それが、私以外の認知症の方や家族の役に立てればよいと思っただけです。

日々の暮らしに暮らしているだけ... 大使としての活動

「行かぬが楽しみ!」
 何でも相談できる場所
 大志の居場所

「おっけい」
 いちがみさんしてくれてくれるのが、何よりです。特別なことは何もしていません。ふつと暮らしているだけだよ!と書いたが、「それでいい!」と書かれてくれて役に立つからと書かれた。

毎日楽しい
 地域の「女子会」に参加

月1回は強盗で「カフェ」

地域のイベントに協力

自分たちと関わって
 いる人たちと、歌や運動を
 楽しみ、時を過ごす...

「認知症」になっても私は
 私と、今の思いを伝える

いつも活動を楽しんでくれる
 皆さんの声かけが、私に
 元気を与えてくれる

地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援についての委員会提案(抜粋)

<p>1 地域版希望大使を都道府県として設置する目的の明確化・浸透</p> <p>・大使設置の目的を都道府県として明確にし、広く浸透を図ることは、その後の活動支援を一貫して進めていくために必要</p> <p>・理解の浸透をはかることで、大使の存在や活動の意味の理解が高まり、大使が活動しやすい環境整備が進む</p>	<p>3 地域版希望大使の任命(委嘱)のあり方</p> <p>・大使を「探す」のではなく、プロセスを大切にする</p> <p>・市町村での本人が話せる環境づくりの促進が基盤</p> <p>・大使となることや活動していく上での適正について、2の役割・要件に照らして、継続的な確認と調整が必要</p>
<p>2 地域版希望大使の人物像及び役割、要件の明確化</p> <p>・自分なりの言葉や姿を通じて、地域の中で自分らしく前向きに暮らしている実際や思いを伝えていく人</p> <p>・そのことを通じて、他の認知症の人や地域社会の人たちが認知症について希望のある見方を持ち、不安を持った人も前を向いてともに暮らしていけるよう広げていくのが役割</p>	<p>4 地域版希望大使の具体的な役割の設定</p> <p>・役割は都道府県ごとに、大使それぞれと話しあいながら設定していく。活動を経ながら役割の展開や変更を</p> <p>5 今後に向けて</p> <p>・本人大使同士のさらなる交流を通じた大使活動の拡充</p> <p>・自治体職員同士の交流促進による任命・運営の向上</p>

第1章 事業概要

1. 事業背景と目的

「認知症施策推進大綱」において、「認知症の人が生き生きと活動している姿は、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけともなり、また、多くの認知症の人に希望を与えるものである」とされ、地域において認知症の本人からの発信支援を行う「地域版認知症希望大使」（以下、希望大使）については、10都県*で任命されている状況にある。

一方、希望大使が、それぞれの地域でどのような活動・活躍をしているかの好事例等は、まだ整理されておらず、当法人が令和3年9月に実施した交流会では、既に任命を行った自治体においても、本人発信のあり方等も踏まえ、任命後にどのような取組を行っていかばよいか模索している自治体が多い。

希望大使任命の趣旨、及び各地での活動（取組）を全国に普及するとともに、希望大使の活動の更なる活性化・質の向上を図るためには、任命者（自治体）同士の情報共有を含めた希望大使同士のネットワーク化により、実際の活動に資する情報の共有や取組のブラッシュアップを図っていくことが必要と考える。

そのため、本事業では、希望大使の趣旨と取組を全国に普及するとともに、希望大使の活動の更なる活性化・質の向上を図ることを目的においた取り組みを行う。

*本研究事業開始時（令和4年6月初）。令和5年3月末、16都府県で任命された。

2. 検討委員会の設置

1) 検討委員会と実施体制

地域版認知症希望大使（以下、希望大使）、希望大使設置都県、認知症領域有識者、市町村、キャラバンメイト／チームオレンジ関係者等からなる委員会を設置し、事業全般の進め方、及び経過・結果等の検討を行った。（委員11名、3回開催/オンライン併用）

検討委員会

*は委員長 計11名（敬称略）

氏名	所属・役職
1 栗田 圭一*	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 認知症未来社会創造センター センター長
2 能任 智子	とうきょう認知症希望大使（東京都希望大使）
3 古屋 一之	ひょうご認知症希望大使（兵庫県希望大使）
4 丹野 智文	認知症本人大使「希望大使」（厚労省希望大使）
5 高比良 桜	千葉県健康福祉部高齢者福祉課 認知症対策推進班
6 安部 志織	大分県福祉保健部高齢者福祉課 地域包括ケア推進班

7	横山 麻衣	静岡県藤枝市地域包括ケア推進課
8	渡辺 幸恵	キャラバン・メイト（桐生市地域包括支援センター山育会）
9	谷口 泰之	認知症地域支援推進員ネット 代表（御坊市介護福祉課）
10	鈴木 森夫	公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事
11	永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター 副センター長

事業施体制

事業全体のとりまとめ：	栗田 主一（東京都健康長寿医療センター）
事業担当者：	永田 久美子（認知症介護研究・研修東京センター）
事業担当者：	宮前 史子（東京都健康長寿医療センター研究員）
事業担当者：	小森 由美子（認知症介護研究・研修東京センター客員研究員）
事業担当者：	鈴木 英一（日本認知症本人ワーキンググループ）
事業経理担当者：	渡辺 紀子（日本認知症本人ワーキンググループ）
希望大使アシスト：	間渕 由紀子（東京都）
希望大使アシスト：	北村 吉次（兵庫県）
事業実施協力：	14都府県の希望大使・アシストの方、都府県事業担当者
調査実施協力：	全国自治体（都道府県、任命済都府県管内市区町村）

2) 検討委員会経過

<第1回検討委員会>

日時：令和4年8月8日（月）15時～17時

開催方法：オンライン会議

内容：

- (1) 本事業の検討委員会について
 - ・委員紹介
 - ・委員長選任
- (2) 事業全体説明
 - ・本研究事業の目的・内容について
 - ・希望大使に関する情報共有
- (3) 討議／検討
 - ・「本人発信」推進における自治体の方策（機会や場づくり等）・工夫と、希望大使の考え方や活動について
 - ・希望大使任命・活動状況実態調査について

<第2回検討委員会>

日時：令和4年12月22日（木）17時～19時

開催方法：オンライン会議

内容：

- (1) 事業経過について：報告（第1回委員会(8/8)以降～）
 - ・地域版希望大使交流会について
 - ・希望大使任命・活動状況調査について経過、結果報告（暫定）
- (2) 討議／検討
 - ・希望大使活動事例集および任命・地域参画手引き（仮称）
 - ・希望大使任命・活動推進セミナー（仮称）

<第3回検討委員会>

日時：令和5年3月3日（金）10時～12時

開催方法：オンライン会議併用（ハイブリッド開催）

内容：

- (1) 事業経過について：報告（第2回委員会(12/22)以降～）
 - ① 全国調査について
 - ・大使のみなさんからのメッセージ、写真（暫定）
 - ・任命済都府県調査・同市町村調査 等（暫定）
 - ・任命済都府県 大使・関係者から／動画（暫定）
 - ② 地域版希望大使活動事例集および任命・地域参画手引きについて
 - ③ 地域版希望大使任命・活動推進セミナーについて【常設コンテンツ化】
- (2) 討議／検討
 - ・本事業の成果物について
 - ・本事業の提案について

3. 事業項目

1) 希望大使任命・活動状況実態調査

<都道府県調査>

- ① 希望大使設置都府県対象：希望大使の活動状況及び活動の効果・課題等に関する調査を実施
- ② 希望大使未設置道府県対象：希望大使設置についての今後の方針・計画・課題等に関する調査を実施

<希望大使設置都府県管内市町村等調査：(都道府県調査①を踏まえて)>

市町村事業等への希望大使の参加・協働、自地域での本人発信状況や課題に関する調査を実施

＜希望大使本人調査＞

大使自身の意識や活動等に関するヒアリング（動画等収録）及び事例収集を実施

＜県担当者意見交換会＞

既に地域版希望大使を任命している県担当職員及び任命に向けて準備を進めている県担当職員の意見交換会を実施

2) 地域版希望大使交流会の開催

希望大使同士の交流促進・設置（任命）自治体間の情報共有とネットワークづくりを目的とした交流会を10月に開催した。

交流会前後のプロセスを含め、交流やネットワークのあり方・方法等を検討し、「希望大使任命・活動推進セミナー」および「手引き・事例集」作成に活かした。

3) 「地域版希望大使の任命と活躍の手引き／地域での活動事例集」の作成

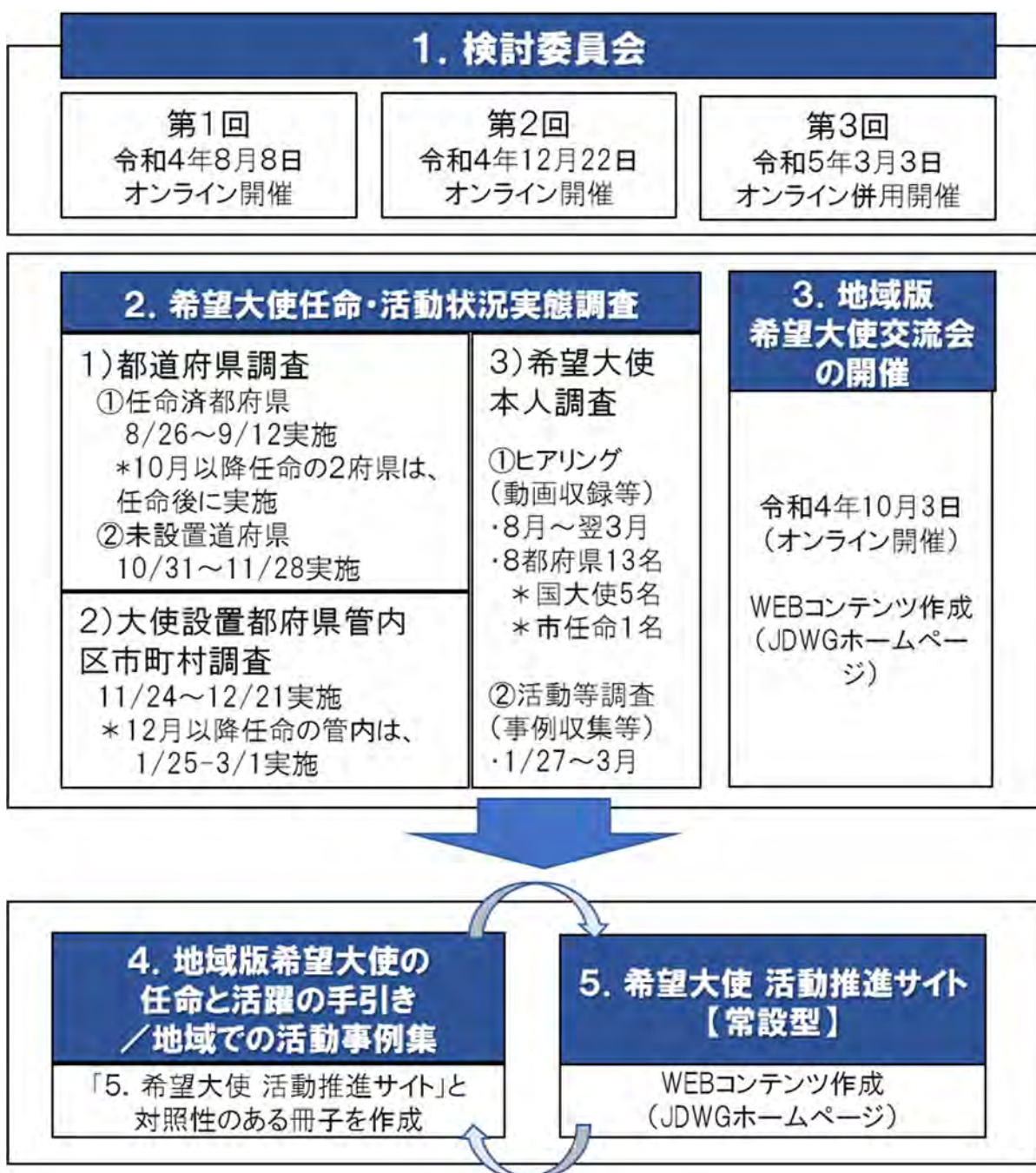
「都道府県調査」「希望大使設置都府県管内市町村等調査」及び「地域版希望大使交流会」「希望大使本人調査」等で収集した情報を整理し、手引き／事例集を作成した。

4) 希望大使 活動推進サイト【常設型 WEB コンテンツ】の設置

当初、オンライン型のセミナー開催を企画していたが、「1) 希望大使任命・活動状況実態調査」の経過、結果及び大使本人、事業担当者等へのヒアリング取材を踏まえて、当法人ホームページ上に、手引き・事例集と対照性のある、WEB コンテンツを作成し、常時活用可能なサイトとして提供することとした。

なお、2)「地域版希望大使交流会」の実施、3)「地域版希望大使の任命と活躍の手引き／地域での活動事例集」の作成、4)「希望大使任命・活動推進サイト【常設型 WEB コンテンツ】」の作成に際しては、希望大使設置自治体担当者等に可能な範囲での協力を依頼し、情報収集、意見交換を行いながら作成した。

4. 事業構成



5. 希望大使任命状況

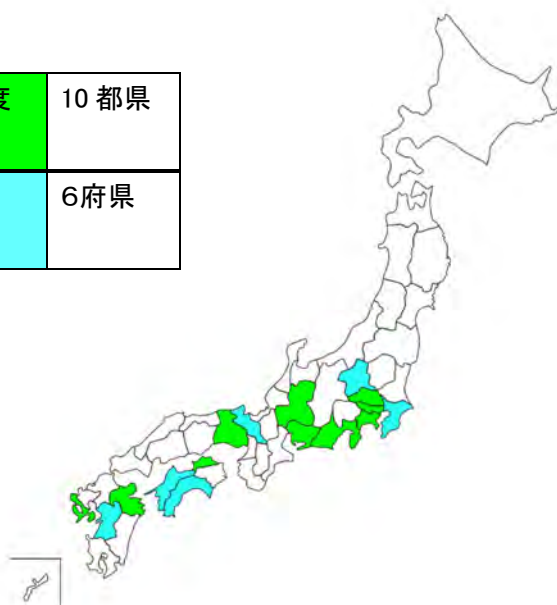
なお、令和5年3月末における全国の希望大使の任命状況（都道府県及び厚生労働省ホームページでの公表ベース）は以下の通り。

都府県名	名称	委嘱日(任命日)	大使の人数
群馬県	ぐんま希望大使	令和5年3月17日	1名
埼玉県	埼玉県オレンジ大使	令和3年9月2日 令和5年2月3日	4名
千葉県	ちば認知症オレンジ大使	令和4年6月24日	2名
東京都	とうきょう認知症希望大使	令和3年9月10日	5名
神奈川県	かながわオレンジ大使	令和3年4月23日	15名
岐阜県	岐阜県認知症希望大使	令和3年9月22日	2名
静岡県	静岡県希望大使	令和2年9月30日	1名
愛知県	愛知県認知症希望大使	令和3年7月27日	2名
京都府	京都府認知症応援大使	令和4年12月7日	6名
兵庫県	ひょうご認知症希望大使	令和3年9月21日	1名
香川県	かがわ認知症希望大使	令和2年12月17日 令和4年12月17日	1名
愛媛県	えひめ認知症希望大使	令和4年10月1日	2名
高知県	高知家希望大使	令和4年7月26日	1名
長崎県	ながさきけん希望大使	令和3年10月13日 令和4年9月10日	5名
熊本県	くまもとオレンジ大使	令和5年2月8日	3名
大分県	大分県希望大使	令和3年3月16日 令和4年10月27日	4名

16都府県 合計

55名

令和2～3年度 委嘱(任命)	10 都県
令和4年度 委嘱(任命)	6 府県



第2章 事業経過・結果

1. 検討委員会

1) 第1回検討委員会

日時：令和4年8月8日（月）15：00～17：00

出席者：

【委員】粟田委員*、能任委員、古屋委員、丹野委員、高比良委員、安部委員、横山委員、渡辺委員、谷口委員、鈴木委員、永田委員 11名
（*委員長に選出）

【委員アシスト】間瀬氏、北村氏

【オブザーバー】厚生労働省老健局 認知症施策・地域介護推進課 村上氏、竹藤氏
兵庫県保健医療部健康増進課 上村氏、衣笠氏

【研究班/事務局】宮前、小森 / 鈴木、渡辺

検討事項：

- ① 本人発信と希望大使
 - ・ 本人発信と周囲の関わり、機会や場について
 - ・ 希望大使の任命の在り方と機能、期待する役割について
- ② 希望大使任命・活動実態調査
 - ・ 都道府県／既任命済の12都県 調査内容案
 - ・ 都道府県／未任命の道府県 調査内容案
 - ・ 市町村 調査内容案

【主な委員意見】

① 調査研究の目的について

- ・ 認知症希望大使は、本人発信を支援するという趣旨でスタートした。しかし、このことから、我々も「認知症ってなんだろう」、「支援、ケアって何だろう」、「認知症施策はどうあるべきだろう」など、様々なことを考えさせられるきっかけになったと思う。そして、こうしたことを考えることにより当事者はもちろん、すべての人にとっての希望に繋っていくように感じている。
- ・ 2020年に5名の認知症希望大使が任命されてから、地域版希望大使が任命され、少しずつ大使の数も増えてきた。それぞれの地域における当事者発信の活動も広がってきている。この調査研究の目的の1つには、こうした地域の本人発信という活動の現状をきちんと可視化させることがあると思う。そして、どのような本人発信の方法がよりよい方向なのか、より効果的なのかを討議することが目的になると思う。

②「希望大使」とは何か、どんな人か

- ・ 希望大使は、認知症の人に希望を与える人で、みんなが希望を持てる人だと思う。だから、大使が匿名とか顔を出さない人では、「この人のようにになりたい」と思わないのではないか。自分自身も、気持ちが落ち込んだ時に「このようにになりたい」と思った人は、自分の症状をきちんと受け入れて、前向きに笑顔で過ごしている人だった。希望大使は、あきらめずに挑戦する人だと思う。講演をすることではなく、自分の趣味でも生活でもいいから、あきらめずにきちんとやっている人だと思う。
- ・ 担当者としても、大使には実名で活動いただきたいという思いはあるが、本人はまだ活動のイメージに自分の気持ちが追いついておらず、ギャップを感じているようだ。
- ・ 周りから勧められて大使になるケースもあるし、自分自身もそうだった。しかし、周りから言われて仕方なくやるなら、それはやはりやってはいけないと思う。
- ・ どういう形で任命されているのかは、かなり重要なテーマであり、きちんと議論すべきと考える。そもそも希望大使とは何かというところから議論を始めても良い。そして、その延長線上に任命の在り方や具体的な活動内容が出てくると思う。
- ・ スコットランドのジェームズ・マキロップさんと、エレナ・ロビンソンさんも、初期から当事者発信を始めた方だが、二人の手記にも、やはり認知症と診断されて絶望し、どうにもならなくなって全て諦めたと書いてある。けれど、二人はあることをきっかけに自分の持っている力を駆使して、認知症に対する偏見を克服するための活動をすると決意したとも書いている。そうした活動が、この希望大使と呼ばれる活動の原点だと思う。
- ・ 私自身、認知症と診断されて一年半泣き崩れた時期があった。その時に出会ったのが、笑顔で元気で、人に優しい当事者だった。自分の症状をきちんと受け入れている人。そういう人が希望大使になって欲しいと思う。
- ・ 逆に、本人の中にも負の発信をする人がいる。負の発信をされると、元気な本人が引張られてしまい、自分のことを否定しはじめたり、先のことが不安になったりしてしまう。また、病気を受け入れておらず、自分は認知症ではないといっている人も大使になるべきではないと思う。
- ・ ピアサポートや会議などで、運転を続けている認知症の人が出来て話していることがある。私も、私の仲間も、運転をやめたからこそ運転をやめる辛さがわかる。辛さがわかるからこそ、「運転免許を考える集い」などでアドバイスができていると思うが、「大使が運転しているから、自分も運転していいんじゃないの」って思われたら、それは希望ではないと思う。
- ・ 大使には認知症の会議にも出てほしい。当事者の視点で、福祉の人たちからは見えない全く違う方向から見えているものがあるはず。ケアパスづくりや冊子づくりも、出来上がったものを見てもらうのではなく、最初の作成段階から入って、一緒に作り上げていく

ような大使になって欲しい。

- ・ 認知症地域支援推進員の立場だが、本人と一緒に活動する中で、本人が自分のことを話してもいいことに気づけた出来事があった。前向きに暮らす本人との出会いは当事者にとってとても大きなことだ。希望大使とはそういう姿勢を示してくれる人だと理解している。

< 委員(希望大使)の発言より >

「道に迷ったよ。でもね、電話したら一人で帰れたよ。」

道に迷ったよ、これは負の発言じゃないと思います。道に迷ったよ、でもね、電話したら一人で帰れたよって、ここが大切ですよ。

負の発言というのは、「道に迷って大変」だけで終わってしまう。そうじゃなくて、道に迷ったけど仲間に電話して一人で帰れたよって、その成功体験を話してくれる人が、やっぱりいいんじゃないかなと思います。

③希望大使の可能性について

- ・ 希望大使もいきなりバリバリ話せたり、発信したり、活躍できたりするわけではなく、色々な出会いや体験を通じて、勇気を与えたいとか、元気にしたいとか、そういう自分のミッションが持てるようになるのだと思う。体験を語るということの意味について、本人も進化していく、成長していく大切な機会になると捉えて、優しく先回りしながら匿名でいいから話して欲しいとか。まだ、本人のせっかくのチャンスを伸ばしきれてないように感じている。
- ・ 例えば、すでに任命された人とこれからなる人が一緒に希望大使の交流会などをしながら、一歩先を行く人とつながって自分の道を歩みやすくする仕掛けをつくれると、変わる人もいるのではないか。今年度研究事業で企画している希望大使交流会のようなことを、地たり、発信したり、活躍できたりするわけではなく、色々な出会いや体験を通じて、勇気を与えたいとか、元気にしたいとか、そういう自分のミッションが持てるようになるのだと思う。体験を語るということの意味について、本人も進化していく、成長していく大切な元レベルでなく、大使になろうという人たちの交流会として実施し、「ああそうか、体験を話すってこういう活動なのか」と気づいてもらえるような取り組みになれば、もっと伸びるような気がする。
- ・ 本人との出会いにより「これから認知症になる人のために、自分はぜひ話をしたい。もっと話を広げていきたい。」と大きく変わられた方がいた。やはり本人同士で話す場は大きな力を持つと思った。

④希望大使の任命の在り方について

- ・ 県全域で活動する自信がない方でも、市内限定であれば是非やってみたいという話が

あり、厚労省に確認をとった上で市が任命したケースがある。ただ市町村で任命した場合は都道府県の希望大使のカウントにならないため、現在、御坊市には希望大使がいるのに、和歌山県にはいないという逆転現象が生じている。

- ・ 大使じゃないけれど地域で活動したい人を大使が応援するという話もあったが、逆のパターンがあってもいいと思う。たとえば市が独自で任命し、市の任命で活動している希望大使の取り組みを県でピックアップして、県の希望大使にするなど。
- ・ 認知症希望大使に限らず、国の事業として進めようとする、事業化すること自体が目的になってしまいがちだが、この事業はそうなってはいけない。
- ・ 委員長の発言にあったように、各都道府県で希望大使を置くことが目的になってしまっ「希望大使って何なんだろう」みたいな事にならないようにする必要がある。もっと小さい市町村単位で活動できるようにしていけば、希望大使が増えていくのではないかな。

⑤当事者の活動と行政の活動の調和について

- ・ 既に希望が持てるような当事者が 20 人以上いる宮城県では、ピアサポートや講演など色々な活動が出来ている。仙台市も、今更、希望大使をつくる必要はないとの意見があり、大使をつくらないという選択肢もあるべきだと思う。
- ・ オレンジドアを作りたいという相談が来ることも多いが、本人が他の本人を元気づける取り組みならば、行政は本人と一緒につくればいいと思う。なのに、行政は枠組みだけつくって後から本人を入れようとする。そして、いざとなるとその本人がいませんという、おかしな話になる。だから作る前に、とことん話し合ってほしいと思う。本人と会話して、本人がやってみたいって言ったら推薦すればいいのに、周りが担ぎ上げるからおかしなことになる気がする。本人の意思をきちんと聞くことが大切だと思う。
- ・ 行政の活動、本人の活動と様々なイニシアチブがあり、そういうものをきちんと調和させる必要がある。行政が先走るとうまくいかないことが多いが、本人に任せておくだけでは限界もあるので、両者の調和を良く考えていくことが重要。
- ・ やはり会話が必要だと思う。まず、会話をして、それから本人がやってみたいことが何かを共有し、それをやるためにどうしたらよいかを一緒に作り上げていくことがとても大切だと思う。どうしても、やるのが目的になってしまっ「本人がいない」という相談がたくさん入る。
- ・ 病院内のピアサポートはすごく良いと思う。元気になる本人が出てきて、その中からまた自分もやってみたいと言う人が出てくる。医療機関でいかにピアサポートを広げていくかが課題だが、もしかしたら希望大使につながっていく重要なところかもしれない。
- ・ 御坊市では、大使は希望ある暮らしの体現者であるということで、自分らしい暮らしを続けている姿や日々暮らしている姿を行政、キャラバンメイトが発信している。本人はイベントや講演会をするわけでもないし、直接発信するわけでもないけれど、周りのサポート

で本人の思っていること、本人の暮らしぶりを伝えていくことも、本人発信の1つの方法ではないかと思う。そういうふうを考えれば、希望大使の任命とか活動のハードルは下がると思う。

⑥調査の視点について

- ・ 希望大使は、それなりの覚悟をもって引き受けることになるので、たとえ今は匿名の人でも、誰かに言われたからやっているというよりは、そういう活動が大事だと思っていて、前向きに、その人なりの考えがあるようにも思う。その辺、躊躇している理由を本人に聞いてみたいし、現在公表している方にも、これまで躊躇したり親族との間で板挟みになったりしていた現実をこの調査の中できちんと聞いてみたい。
- ・ 私が聞いている範囲でも匿名の大使はいらっしゃるが、本人に会うとやる気があるし、名前を出しても構わないと仰っていた。しかし、いざとなるとご家族や親戚の方から「やっぱり不特定多数の人に知られたら困る」というようなブレーキがかかって、本人ががっかりしていたケースもある。
- ・ そういう意味も含めて、逆に家族とか周りも親戚も変わっていくような、今、残念ながら匿名になっている方でも変わることが出来たという、前向きな成功体験の事例になるよう、応援していけたら良いのではないかと思った。
- ・ 家族が不安に思っていることを具体的に出して、たとえ実名を公表してもそうした心配ごととは起きていないということを示し、家族の不安をクリアにするような提案も必要ではないか。本人大使に限らず、本人発信の壁になっている事について、「実はそうではない」という証明をした方が良いと思う。
- ・ 例えば、大使を引き受けるにあたり悩んだことが色々あったと思うが、調査では、それが取り越し苦労で、心配していたような事にはならなかったということを確認できれば良いと思う。また、身近な人達ほど名前を公表して活動することに不安に感じているはず。本人が活動することによって、周りの人たちがどう変わってきたかについてもいけたら良いと思う。
- ・ 調査は、希望大使というものを改めてきちんと考えさせるようなものにしていきたい。けっして希望大使をつくることを急がせている調査ではないということを注意しなければならぬ。

2) 第2回検討委員会

日時：令和4年12月22日（月）17：00～19：00

出席者：

【委員】粟田委員長、能任委員、丹野委員、高比良委員、安部委員、横山委員、
渡辺委員、谷口委員、鈴木委員、永田委員 10名

【委員アシスト】間渕氏

【オブザーバー】厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 谷内氏、村上氏、竹藤氏
兵庫県保健医療部健康増進課 上村氏、衣笠氏

【研究班/事務局】宮前 / 渡辺

検討事項：

- ①地域版認知症希望大使交流会について
- ②希望大使任命・活動状況調査について：経過、結果報告（暫定版）
- ③任命済都府県の現地ヒアリング及び映像紹介について

【主な委員意見】

①調査結果及び本人発信支援と希望大使活動の考え方について

【大使の担い手が見つからないという自治体の意識】

- ・ 大分県では、希望大使の方々が前向きに取り組んでいて、行政もできることを一緒に考えながら進めている。現在のピアサポーター登録者は18名。大使も一緒に積極的に活動しているため、ピアサポーターが大使に引っ張られるかたちで、自分たちが発言することの意味などについても語るようになってきた。発言力が広がっていると感じる。
- ・ 市町村の調査結果を見ると、本人発信支援と希望大使の設置が結びつかないという声も聞かれるが、自分の中では、希望大使は前向きな発言のシンボルとして、他の認知症の人にイメージを与えていただけたところが大きいと考えている。
- ・ 兵庫県では、本人がどのように暮らしたいと思っているのかを地域の支援者、介護保険関係者、障害福祉関係者等が集まって、皆で共有する機会を設けた。本人は、認知症の症状が進行してきているが、人と繋がっていたい、出かける場所が欲しいといった自分が大事にしたいと思うこと、望む生き方について話してくださった。
- ・ 本人発信とか社会参加ということについては行政の中でもよく話されることだが、介護保険等現場関係者とそうしたことを前提に話を共有することは難しく、今後、どのように展開させていくべきか悩んでいる。地域の課題としてやっていかなければならない。
- ・ 本人発信支援や意思決定支援について、介護保険の世界ではあまり伝わっていない感覚があり、大きな問題だと思っている。認知症施策と介護保険施策がうまく調和しておらず、そこに課題があるように思う。

- ・ 調査結果として、大使の候補者が少ないとか本人に出会えないという課題が挙がっていたが、大使を探すことに注力しすぎると、本来の希望大使の役割を損なう危険もあると思う。「発信できる人がいない」という話もよく聞かすが、実は誰もが発信しているのに、それを聞いたり受け止めたりする力が足りないところに問題があると思う。言葉だけではない本人の発信をどう捉えていくかをもっと大切考えるべき。
- ・ 市町村の立場から感じているのは、希望大使の活動をイベントだけで終わらせないように、役割をしっかりと考えていく必要がある。大使の存在を活かして、地元の活動や本人同士の繋がり、地域等の変化につなげていくことが大切。

(取り組みのポイント)

- ・ 手引きの作成やセミナーを実施する上で、本人に出会えない、発信出来る人がいないという自治体の意識にどう対応するか
- ・ 大使の役割をイベントで終わらせないために、何を伝えていくべきか

【大使の役割は自分自身の希望ある暮らしを続けていくということ】

- ・ 「希望大使の発信」と聞くと、どうしても講演会などのイメージになりやすく、役割もそこに偏りがち。しかし、希望大使の役割は「希望ある暮らしを続けている姿を発信すること」だと思うので、その発信方法は行政と本人とが一緒に考えていくことが大事。ガイドにはそのことを入れるべき。
- ・ 本人たちは本当にたくさん発信していると思うし、いろいろなところで声を聞いているはずだ。その声を聞いた人が他の人に共有していくことも、本人からの発信だと思うし、意識の転換さえあれば、希望大使の役割もいろいろと出てくると思う。
- ・ 県の担当者が本人に会って、いきなり希望大使を依頼しても難しい。それまでの関係性がとても大事だ。築き上げてきた信頼関係があつてこそというところもあるので、そういったプロセスも大事にしたら良いと思う。
- ・ 発信できる人がいないっていうけど、最初から発信できる人なんていないし、喋れる人もいない。皆、喋れば喋るほど上手になっていくのに、今は喋る機会が与えられていないだけだと思う。
- ・ 仙台にはピアサポーターが大勢いるが、役割は発信ではなく、目の前の不安を持った人を一人でもいいから元気づけること。例えば、コーディネーターがピアサポーターを誘って一緒に本人に会いに行くことで、当事者と当事者が会うことができる。すると、本人は本当に元気になる。その連鎖で、地域が変わるのではないかと思っている。光がある人だけが発信していても、なかなかうまくいかないような気がする。
- ・ すごく難しく考えていて「本人に出会えない」というけれど、病院にだって、役所にだって認知症の人はたくさんいて、毎日会っているはずなのに、少しズレているように思う。

- ・ 希望大使を作る事ではなく、地域にたくさんの当事者が増えるような活動を増やしていけばよいと思っていて、一人が一人を元気づければどんどん多くの当事者が出てくるような気がする。仙台ではそれを 8 年間やってきた結果として、89 歳の要介護の人が話をするし、講演もする。それが当たり前になってくる地域になることが大切だ。
- ・ プライバシーの保護について、周りが気にしすぎていると感じる。認知症の人はなにも悪いことしているわけではないので、本人が出たいと思っているなら出ればいいし、本人の意思を聞きながら進めればうまくいく話だと思う。
- ・ 希望大使の役割をもう少し明確にすべき。言葉で発信することも大切だが、「目の前にいる一人の人を元気づけるのが希望大使の役割」と考えれば、もっと簡単に出来ることがあるのではないか。
- ・ 仙台の初期集中支援チームには、当事者も入っている。本人がやりたいというような仕事に、言い方が悪いかもしれないが本人をもっと使ってあげれば良いと思う。

<委員(希望大使)の発言より>

今まで通り、普通に暮らして元気にしています。ただそれだけです。
それが私以外の認知症の方や家族の役に立てれば良いと思っただけです。
ただ日々、普通に暮らしています。

【大使を探すのではなく、プロセスを大切にする】

- ・ これまでの意見に大切なことがたくさん出てきた。ガイドや事例集、セミナー等の中でしっかりと伝えていけたらと思う。一方で、発想が追いついてこなかったり、躊躇していたりする自治体担当者にどうやって伝えていくかの作戦も必要だと感じた。
- ・ 大使はいきなり大使になるわけではなく、長い経過の中で様々な人に出会い、地域で動き出すのにもきっかけがあったはず。大使になった後にどうされているのか、そういった視点に立って分かりやすく、流れを示すことができるいくつかのパターンがあるかもしれない。
- ・ 地元での出会いと活動が広がり、そこに行政が合流して大使という活動が始まり、行政も本人の視点や地域で暮らすという視点をしっかりと持ちながら、地域の動きを捉えながら、本人が自然に無理なく活動していけるきっかけや仕組みなどをわかりやすく示せたら良いと思う。

【話し合う機会を丁寧につくり、認知症に関わる多くの事業のコアを見つける】

- ・ 今回の調査で見えてきた「本人に出会えない」とか、「どうやったら良いかわからない」という課題は、大使に限らず、初期集中、本人ミーティングを含めてすべての事業に共通する課題だと思う。そうであるなら、大使を入口にしつつ、大使と行政関係者がしっかりと話し合う機会を丁寧に作ることで、本人がやりたいことや方向性、方針を話し合うことで、あらゆる取り組みや事業のコアになるもの、ひとつの原型をつくることが出来るのではないか。

【本人発信の在り方、聴く側の姿勢、応援の仕方を考えるということ】

- ・ もう一つは、本人の発信力の問題ではなく、聴く側の課題がとても大きいということ。認知症だけでなく様々な病気により伝えることが難しくなっても、本人が望むのであれば状態に応じた発信を応援していけばよい。本人は変わっていく自分の姿を知ってもらうことも必要ではないと考えているし、その姿を伝えることに新たな役割意識を持って前向きになれる人もいる。言葉を超えて、本人が表情とか振る舞いとか、全存在をかけて発信していくっていうことを今回の手引きでもしっかりと挙げていよいよ感じた。
- ・ 周囲の人や家族は、変化していく本人の姿を人前にさらすことが可哀そうだと考える場合も多いが、それは本人が決めることだと思う。
- ・ 大使の多くが最初は喋らなかつたし、表情も暗かつた。でも、その人たちがこんな風に変わっていくということを知って欲しいと思う。最初から喋れる人、明るい人を探そうとするから変な話になるのだと思う。

【自治体職員の課題】

- ・ 自治体は大綱などで目標値が定められ、任命すること自体が目標になっている。
- ・ 職員は頻繁に異動があるため、せっかくこうした取り組みについてコミュニケーションをとれるようになっても担当者がすぐに異動してしまう。都道府県や市町村とうまく連携していく方法は課題だと思う。

②希望大使活動事例集および任命・地域参画手引き（仮称）について

- ・ 行政や介護保険の世界でも、「希望のリレー」という言葉を理解できる人はほとんどいないと思う。今回の手引きは、こうしたことがいかに重要か、希望大使とはどんな取り組みかということ伝えられるものにしたい。
- ・ 希望大使になった人がなぜ元気になれたのか、その人がなぜ希望大使になりたいと思ったのか、実際にやってみようのか等、本人の言葉をどんどん文章化して載せた方がわかりやすいと思う。
- ・ 文字ばかりの手引きは頭に残らない。当事者の写真がそのまま載っている写真はとてもインパクトがあるが、日本では作られていない。
- ・ 写真を出すことで何か問題があったのか、なかったのか。問題があるという話も、やはり本人の言葉で語られるべきで、生々しい言葉で書いてあった方がその先のコンプライアンス的な問題に対応できるのではないか。
- ・ 県の担当者が直接大使候補者に繋がるのは難しいし、市町村担当者も同様のケースがあると思う。どんなプロセスで当事者が包括や推進委員に繋がったのか、受診先の病院から勧められたのかなど、具体的なプロセスの事例が入るとわかりやすいと思う。

③希望大使任命・活動推進セミナー（仮称）の方法、構成案

- ・ 大使自身と県担当者のインタビューなど、とてもインパクトがあると思う。
- ・ 事務局では、既に任命した自治体の取組みの現場に、他自治体の担当者が伺い、意見交換の機会の調整を進めている。やはり、実際に現地に行って見てもらうことで、得られる空気感があり、これからの取組みに活かせるのではないかと。

④議論全体について

- ・ 一番すっきりしたのは、希望大使の目的について「目の前の一人の人を元気づけるところから…」という部分だ。これをやればいいのだと、すっきりとした目的を教えてもらった気がする。
- ・ 今日ここで話してきたことは決して医療の話ではないし、ましてや介護の話でもない。そのことがとても重要で、現在の行政の制度的な枠組みでは捉えられないような話なのかもしれない。
- ・ たとえば、市町村の地域支援事業の中でこれらをやろうとすると、いろいろな壁ができてしまう。しかし、こういうことが、今、非常に求められている。特に最近は社会保障政策に地域共生社会というキーワードが出てきており、そういう切り口がとても重要だということを確認できたと思う。これを広めていくことが我々に課せられた課題だ。

3) 第3回検討委員会

日時：令和5年3月3日（金）10：00～12：00

出席者：

【 委 員 】 栗田委員長、能任委員、古屋委員、高比良委員、横山委員、渡辺委員、
谷口委員、鈴木委員、永田委員 9名

【委員アシスト】 間渕氏、北村氏

【オブザーバー】 厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 谷内氏、村上氏、竹藤氏
兵庫県保健医療部健康増進課 上村氏、衣笠氏

【研究班/事務局】 宮前、小森 / 渡辺

検討事項：

①事業の成果物について

- ・ 地域版希望大使活動事例集および任命・地域参画手引き（暫定版）
- ・ 地域版希望大使任命・活動推進セミナー（暫定版）

②本事業の委員会提案について

【主な委員意見】

①事業の成果物について

【手引き作成の方針について】

- ・ 手引きにより「発信(方法)は多様である」ということが伝わるとよいと思っている。行政担当者が希望大使の定義(障害の受容や状態像)に捉われてしまうと、事業を進めるうえでのバリアになってしまう。認知症の人を探すという視点ではなく、普段から本人が話せる環境を作っておくことが大事だし、行政も一緒になって考えていくべきだということが伝わるといい。
- ・ 手引きは、事業を進めるにあたり苦勞している自治体が手に取ることになるだろう。なかなかうまくいかないという声がある中、好事例だけでなく、苦勞した点についても触れるべきだと思う。うまくいっている自治体も、たまたま運よく本人に出会えたわけではない。
- ・ この手引きは、「これから大使になる人へ」と「大使になったきっかけ」が盛り込まれていてよくできていると思う。「発信できる本人に出会えない」という課題が挙がっているが、本当は普通に暮らす姿を見せることなのだから、希望大使の前にその普通の暮らしを発信する場や機会があるかどうかが重要になると思う。国が任命した5名の希望大使もいきなり大使になったわけではなく、それまでの多くの発信があったからである。
- ・ 任命済み都道府県に対する調査でも課題を確認しているので、そこから任命までのプロセスや実施する上での課題などを手引きに示せると思う。

【任命の意義について】

- ・ 大使ではなくても発信している当事者は大勢いる。そういう中でわざわざ大使を任命することの意味について示す必要があるのではないか。
- ・ 任命の意味はとても重要。「旧い認知症観からの転換」とあるものの、それは大使を任命しなくてもやれることだ。
- ・ 期待される効果として「認知症観の転換」というのはあるが、大使の方々に背負わせる役割ではないと思う。
- ・ 兵庫県はもともと当事者会があり、本人も様々に活躍していた。各地域でチームオレンジとしてすでに活動しているから、この先、もしも大使が途切れたとしても不安感はない。本当に大使の活動をしてみたい人が現れたら、再び任命すればいいと思っている。
- ・ 様々な人たちに、認知症の人たちがこのように暮らしているということを示せるという意味で、希望大使は非常に意義のある活動だと思う。

【活動をアシストする人について】

- ・ 希望大使活動を円滑に進める上では、活動をアシストする人をどう育てるかという視点も重要だと思う。

【本人との出会いから丁寧に関係性を築くこと】

- ・ 任命を急ぎすぎることによる課題に関連して、県の担当者は当事者と出会う機会がほとんどない。プロセスの話も同じだが、現場では、まず地域包括の担当者と本人の信頼

関係が築かれていないと、市町村も任命することはできない。そういうことを手引きに示す必要があると思う。

- ・ 希望大使を引き受けてくださった方も、最初はやらないと言っていた。しかし、周りのサポートがあることや、普通の姿を見せればいいということを説明して、やってみようという気持ちになってくれた。そういった普段からの関係性があるからこそ出来ることだと思う。
- ・ 現場(自分の場合は地域包括支援センター)にいる我々と本人とは、対等な関係だと思いつながり取り組んでいる。そういうことも手引きに盛り込んでいけばいいと思う。
- ・ 最初の出会いとして、地域包括や認知症地域支援推進員等と本人の関係が重要であり、プロセスの1番目であるということが強調できるという。

【本人のモチベーションに寄り添うこと】

- ・ 本人発信の機会はあるが、そこで本人のモチベーションがどうなのか、仲間同士の関係性の深まりはどうか等がポイントになると思う。それらを踏まえて希望大使のプロセス、位置づけ、機能を示せばいいと考える。
- ・ 本人ミーティングでも同様の課題が浮かび上がっている。様々な本人主体の認知症施策があり、いずれも本人が話すということが核になる。希望大使は、それを活性化させる重要なきっかけとなるということが伝わるという。

②本事業の委員会提案について

【委員会提案事項について】

- ・ 委員会議論を踏まえて手引きに反映するとともに、動画コンテンツに大使任命までのプロセスを関係者の声をもって示す予定。
- ・ 事例集としてはよいと思うが、これから取り組もうとしている自治体にも分かるようなプロセスを手引きパートで示してほしい。委員会提案を手引きに入れるのであれば慎重な議論が必要。
- ・ 未任命の全ての道府県からプロセスに関して知りたいことの回答を得た。任命済み都府県調査も全ての都府県から回答を得られたので、これらをもとに手引き・報告書に反映する予定。

【希望大使の在り方と期待する機能・役割】

- ・ 希望大使という言葉が何なのかはよくわからないが、「ただ普通に暮らしている」ということを発信している。
- ・ 希望大使といういつも意義がついて回る。非常にデリケートなものだと感じている。「明日からあなたに大使をお願いします」とはお願いできない。責任をもって関わるものだと思う。
- ・ 認知症になったからといって嫌なことばかりではなく、朗らかに暮らしていく方法がある。それをどれだけ広げていくかの役割があると思っている。

- ・ 特に特別なことをするわけではなく、元気に暮らしていることをみんなに知らしめる。私は私で暮らし続けられることを見せられる人が希望大使ではないかと思っている。
- ・ 希望大使の方たちにはいろいろな会議でお会いするが、本当に普通だなと思う。診察室で出会う人たちも普通の人たち。でも、希望大使はこういうところで発信してくれるところが違う。そういうところが強調されているといいと思う。

【ネットワーク化について】

- ・ 大使のネットワーク化に向けた足がかりとしての議論も進めてほしい。
- ・ これから開催する大分の研修では、県外から複数の県担当者が見学に来る予定であり、県担当者間の意見交換が行われる。こうした取り組みも、ネットワーク化に向けた足がかりになると考えている。
- ・ コロナの縛りが緩和してくれば、リアルな交流会ができるようになると思う。それを誰が主導するかといえば、やはり都道府県担当者になるのかもしれない。だから、都道府県担当者同士のつながりも必要になってくるだろう。地方厚生局単位の交流も考えられるのではないか。
- ・ 地方厚生局単位というのは良いと思う。まず、ローカルな繋がりを作り、そこから全国レベルの交流を行うという2段階で、ボトムアップでネットワーク化を進めていく。全国規模の交流については、JDWG が関わっていくという話になるのかもしれない。

【大使任命を目的化すべきではない】

- ・ 「希望大使任命を目的化しないようにする」ということを提案に入れてもよいと思う。
- ・ 大使の支援者の方の活動費用は事業の中に含まれているが、一定数を超えると事業は形骸化していくのが常である。本人発信の重要性について、県がずっとブレなければ、この活動をじっくりと育てていける。そのためにもネットワーク化は重要。

2. 希望大使任命・活動状況実態調査の結果

1) 実態調査実施概要

(1) 都道府県調査

<希望大使設置都県対象調査>

実施方法: 電子メール添付による書面送受、及びヒアリング(情報照会)

調査対象: 14 都府県 ※調査実施時点

調査内容:

- ・認知症希望大使事業概要
- ・事業プロセス
- ・希望大使の活動
- ・希望大使活動の支援者・協力者に関すること
- ・希望大使の事業効果と今後の展開・計画 等

実施日: 8/26～9/12

※10～12月に大使を任命した2府県については、任命後に随時実施した

回収率: 100%(14/14)

<希望大使未設置道府県対象調査>

実施方法: 電子メール添付による調査票送受、必要時追加情報照会

調査対象: 33 道府県 ※調査実施時点

調査内容:

- ・本人発信支援を目的に、自治体として直接実施している事業
- ・本人発信支援を目的とした管内市町村・団体への支援策等
- ・地域で活動している認知症の本人に関する情報やその人の活動に関する情報把握の状況
- ・地域版希望大使の任命に関する計画、課題等
- ・任命の計画を進めるにあたり知りたい情報 等

実施日: 10/31～11/28

回収率: 100%(33/33)

(2) 希望大使設置都県管内市町村等調査

実施方法: 電子メール添付による調査票送受(都府県から回付)

調査対象: 520 区市町村

調査内容:

- ・希望大使による市区町村事業への参加・協働の状況
- ・活動の効果・課題
- ・今後大使に関わってもらいたい事業等
- ・事業や取組みに大使が参加・協働するうえでの課題や活動促進に

繋がるアイデア

- ・本人発信に繋がる活動等の把握状況
- ・現在、本人とともに取り組んでいる事業等
- ・本人発信の推進における課題
- ・本人発信に関する今後の取組計画 等

実施日:11/24~12/21

※12月以降に任命された1府の管内市町村は1/25~3/1に実施した。

回収率:71.5%(372/520)

(3) 希望大使本人調査

実施方法:

- ①ヒアリング調査(動画収録等):各地の取組み等取材に合わせて、大使(と活動をともにする人)にヒアリングを実施
- ②活動等調査(事例収集等):各大使のメッセージ、日々の暮らしの様子、活動状況等を写真と共に提供依頼

実施人数:

- ①ヒアリング調査:8都府県13名、市任命大使1名、国大使5名
- ②活動等調査:14都府県38名(調査実施時14都府県52名中)

調査内容:

- ①任命までの経緯・活動、日々の暮らしや活動、これらを通じて考えること 等
- ②次に続く人へのメッセージ、大使になったきっかけ、日々の暮らしや活動 等

実施日:

①

インタビュー実施都府県等	人数	実施日
神奈川県	3	9/23
岐阜県	2	9/30
兵庫県	1	10/13
香川県	2	11/6
高知県	1	11/7
京都府(委嘱式取材)	—	12/7
東京都	2	2/9 2/22
京都府	1	3/8
大分県	1	3/12
* 鳥取市任命	1	8/24
* 厚生労働省任命	5	2/25

②1/27~3月。内容確認等で、随時延長した。

(4) 県担当者意見交換会

実施方法:座談会形式

実施日:令和5年3月12日(日) 14:00~15:10

場所:なでしこガーデンデイサービス/大分県大分市

参加者:

(県職員)

大分県	福祉保健部高齢者福祉課地域包括ケア推進班	安部 志織氏
兵庫県	保健医療部健康増進課 認知症対策班長	上村 ^{こうむら} 佐和子氏
兵庫県	保健医療部健康増進課 認知症対策班	前川 祐一郎氏
長野県	健康福祉部介護支援課 参事兼課長	油井 法典氏
長野県	健康福祉部介護支援課 主事	柳澤 佑輔氏

(司会)

JDWG 老健事業検討委員 永田 久美子氏

(事務局)

JDWG 老健事業検討委員 谷口 泰之氏

JDWG 老健事業研究班 小森 由美子

JDWG 老健事業研究班 古賀 ゆり

JDWG 老健事業事務局 渡辺 紀子 (計10名)

実施内容:

既に地域版希望大使を任命している大分県及び兵庫県の担当職員及び任命に向けて準備を進めている長野県担当職員の意見交換会を開催し、県職員として当該事業に取り組むための基本姿勢、留意すべき事項、大使任命プロセスにおける疑問や課題意識等について、率直な意見交換を行った。

なお、大使の活動現場である、大分県認知症ピアサポーター研修(大分県主催で、同日午前で開催)ならびに、大分県の希望大使がピアサポーターとして活動する現場(なでしこガーデンデイサービス)を視察した後に本意見交換を行い、収録動画を「希望大使活動推進サイト(常設型)」のコンテンツの1つとした。

2) 調査結果

(1) 都道府県調査

<希望大使設置都県対象調査>

設問1 認知症希望大使事業概要について

①各都府県の希望大使の名称

都府県名	各都府県の希望大使の名称	事業創設年月日 (または大使委嘱日等)	現在の 大使の人数
埼玉県	埼玉県オレンジ大使	令和3年5月25日	2名
千葉県	ちば認知症オレンジ大使	令和3年12月23日	2名
東京都	とうきょう認知症希望大使	令和3年4月1日	5名
神奈川県	かながわオレンジ大使	令和3年4月23日	15名
岐阜県	岐阜県認知症希望大使	令和3年4月1日	2名
静岡県	静岡県希望大使	令和2年9月24日	1名
愛知県	愛知県認知症希望大使	令和3年7月27日	2名
京都府	京都府認知症応援大使	令和4年12月7日	7名
兵庫県	ひょうご認知症希望大使	令和3年9月1日	1名
香川県	かがわ認知症希望大使	令和2年12月17日	2名
愛媛県	えひめ認知症希望大使	令和4年12月13日	2名
高知県	高知家希望大使	令和4年5月16日	1名
長崎県	ながさきけん希望大使	令和3年10月13日	3名
大分県	大分県希望大使	令和2年12月28日	2名

②任命要件／選任方法

任命要件	
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症になっても地域で自分らしく暮らしている人 ○ 認知症の普及啓発活動に意欲のある人
千葉県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在住者であること ○ 認知症の診断を受けていること ○ 認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ○ 氏名・年代・所在市町村名・疾患名・経過・略歴・顔写真を原則公表できること
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在住の認知症の本人
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在住者であること ○ 認知症の診断を受けていること ○ 認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ○ 氏名・年代・所在市町村名・病名・経過・略歴・顔写真を原則、公表できること(公表できない理由がある場合はその限りではない)
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希望大使として人格、意欲等から適任と認められ、本人家族ともに認知症希望大使の任命を承諾している県内在住の認知症の人
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希望大使として人格、意欲等から適任と認める者

任命要件	
愛知県	○ 人格、意欲等から適任と認める者
京都府	○ 府内在住であること ○ 認知症の診断を受けていること ○ 認知症の普及啓発活動に府と協力・連携できること ○ 氏名・年齢・所在市町村名・病名・経過・略歴・顔写真を原則、公表できること(公表できない理由がある場合はその限りではない)
兵庫県	○ 県内在住であること ○ 認知症の診断を受けていること ○ 認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ○ 氏名・年代・所在市町名・略歴・顔写真を原則、公表できること(公表できない理由がある場合はその限りではない)
香川県	○ 要綱に具体的には記載なし。
愛媛県	○ 愛媛県内在住者 ○ 認知症の診断を受けていること ○ 認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ○ 本人の同意を得ていること
高知県	○ 高知県内在住者 ○ 認知症の診断を受けていること ○ 県等が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力ができること ○ 本人の同意を得ていること
長崎県	○ 県内在住であること ○ 認知症の診断を受けていること ○ 認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること ○ 氏名・年代・所在市町名・略歴・顔写真を原則、公表できること(公表できない理由がある場合はその限りではない)
大分県	○ 県内在住であること ○ 認知症のご本人として、氏名・年代・所在地・略歴・顔写真等の公表が可能であること ○ 希望大使への活動意欲があり、県と協力・連携ができること

選任方法は、多くの自治体で「公募(自薦、他薦を問わない)により書類審査のうえ決定」としているが、特に規定を設けていない自治体もある。

選任方法の例

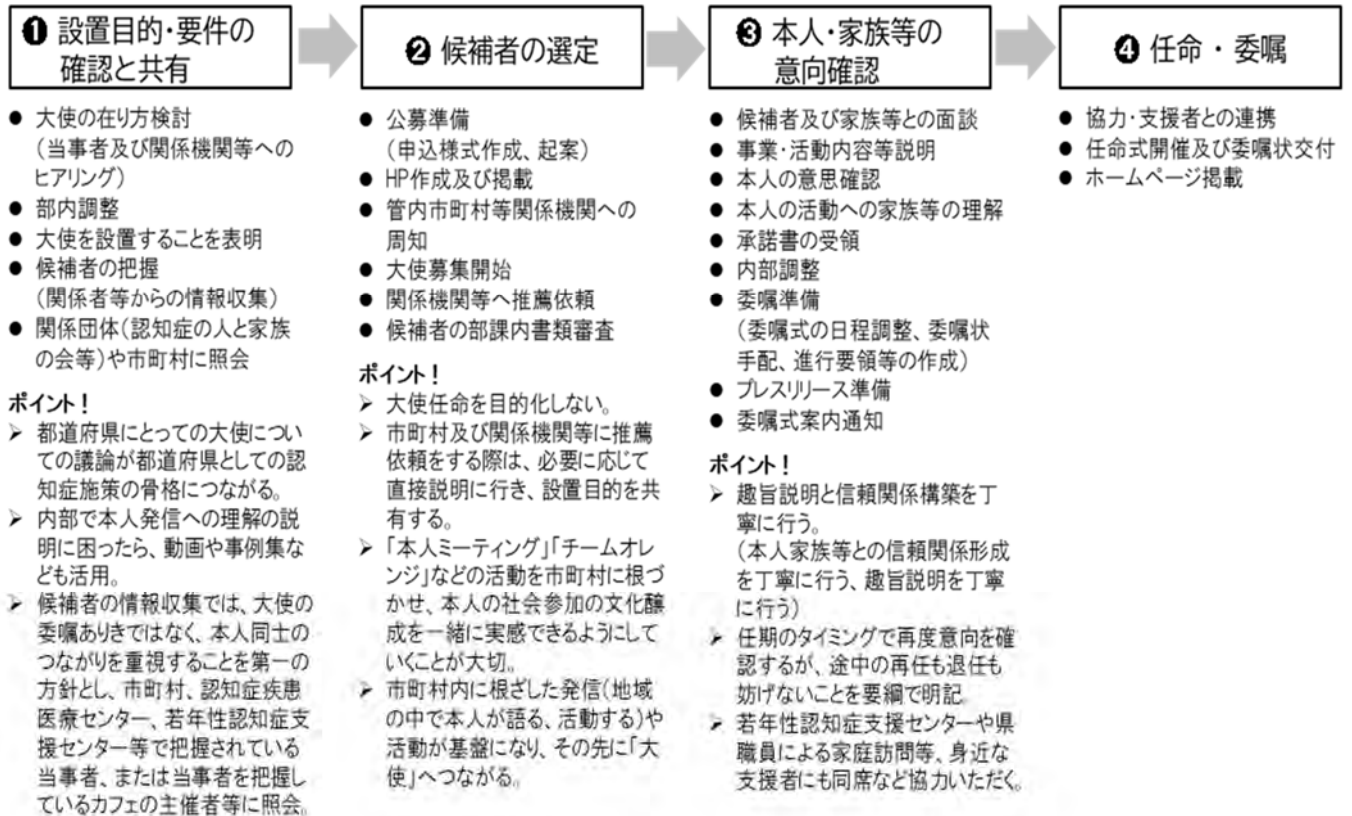
- 公募(自薦、他薦を問わない)により書類審査のうえ決定
- 市町村や医療機関、家族の会等の関連機関からの情報提供により、課内で適任かを検討
- 関係機関から推薦された候補者から書類審査等により選定
- 関係団体からの推薦
- 応募要件に該当する方全員を対象に選考委員会を開催し、面接のうえ決定
- 知事が適任と認められる者から若干名
- 課内で書類審査 等

設問2 事業プロセスについて

①起案～候補者把握～候補への声かけ～調整～承諾～任命・委嘱の具体的な業務の流れ・手順

事業の起案から任命・委嘱までの具体的な業務プロセスを確認したところ、いずれの都府県も、大きく、①設置目的・要件の確認と共有、②候補者の選定、③本人・家族等の意向確認、④任命・委嘱 の4段階で業務が進められていた。下図は、ヒアリング調査で得られた情報をもとに、各段階で必要と考えられる業務内容を整理した。

【任命・委嘱までの業務プロセス】



②任命・委嘱に要した期間・日数等

要した期間・日数等は、最短で約2か月、最長で約12か月との回答があった。

平均的には6か月弱となっており、5か月から6か月との回答が多かった。

③任命・委嘱に際しての主な助言者・協力者（相談先・協働先・立場等）

協力関係者の例

- 地域関係者：市担当者、地域包括支援センター、若年性認知症支援コーディネーター
- 公益社団法人認知症の人と家族の会など支援団体等
- 認知症施策推進会議委員
- 認知症地域支援推進員
- 医療機関（認知症疾患医療センター、県若年性認知症支援センター、認知症サポート医）等
- 介護サービス事業者
- 若年性認知症支援コーディネーター、オレンジチューター等
- 本人交流会を実施している機関等

④任命・委嘱に際し課題となったこと、及びその解決アクション

【課題意識：自由回答の分類】

カテゴリ	内容
候補者選定の課題	大使候補者が少ない
	本人が情報発信できる状況にない
	地域・年齢・性別等バランスを考慮して任命をする必要性があった
	大使の募集から選定までの方法が分からなかった
	候補者の選定が課題
家族からの同意の問題	家族の同意をどう得るか (推薦要件としていないが、家族の同意確認の回答あり)
事業実施に関する課題	大使活動にかかる費用の支給方法が課題
	希望大使に協力を依頼する事業内容の整理
事業に関する関係者間の 共通理解に関する課題	自地域らしい大使のあり方についての検討が必要
	大使活動の在り方について関係者間で共有できていない
	大使活動の今後やあり方が本人家族含め関係者間で共有できていない
	様々な関係者との情報共有が必要

【課題を踏まえたアクション：自由回答分類】

大カテゴリ	カテゴリ	内容
選定に至るまでの アクション	若年性認知症コーディネーターとの連携で本人とつながった	若年性認知症コーディネーターによって発信できる本人とつながった
	他地域の経験を参考に選定した	大使の募集から選定について経験のある他県担当者にヒアリングを行った
	関係機関と協力して大使を選定した	自地域らしい大使のあり方について当事者たちから意見をもらった
		関係機関に聞き取り候補者を把握した 地域・年齢・性別等のバランスを推薦者に配慮してもらった
事業協力への同意に関するアクション	家族の同意を必須としなかった	家族の同意を必須条件とはしなかった
	趣旨説明と信頼関係構築を丁寧に行った	本人家族との信頼関係形成を丁寧に行う 本人家族へ丁寧に趣旨説明をした
事業を実施するために 行ったアクション	他地域の経験を参考に事業を実施した	大使活動にかかる費用について他県の状況を参考にした
	現場の声を参考に事業を実施した	協力を依頼する事業について過去の事業やヒアリングで把握した
	関係者間で情報共有を行った	趣旨や本人の意向を当事者の地元の関係者と情報共有した 大使のスケジュールを生活支援関係者と共有した

設問3 希望大使の活動について

①活動内容(機会や場)

活動内容(機会や場)	
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症サポーター養成講座での講演 ○ 認知症に関する講演会での講義
千葉県	<p>県が依頼する普及啓発活動のうち、大使本人の希望や体調に合わせ、参加が可能な活動を行う。</p> <p><活動例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会の講師やパネリスト(自らの体験の紹介等や進行役との質疑応答等含む) ○ 県広報紙等への寄稿(インタビューへの応答等含む) ○ 認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトへの協力(自らの体験の紹介等や講師との質疑応答等含む) ○ 県認知症施策への意見 ○ ピアサポート活動(認知症カフェや家族交流会、本人ミーティング、講演会など本人や家族が集う場での支援活動)
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力 ○ 区市町村が行う認知症の普及啓発活動への協力 ○ その他
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会の講師やパネリスト ○ キャラバン・メイトへの協力 ○ 広報誌等への寄稿 ○ 広報映像等への出演 ○ ピアサポート活動 ○ イベント等での楽器の演奏や歌などのパフォーマンス ○ 美術作品等の紹介 ○ 県の認知症施策検討への参画 ○ 市町村や関係機関からの依頼による活動
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症に関する講演会、研修会内における講話等
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町主催の講演会、フォーラム等での講話 ○ アルツハイマー月間の啓発活動への協力(啓発動画への出演、街頭活動等参加) ○ 広報誌等への掲載
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県が主催するイベント(認知症県民フォーラム)への登壇 ○ ピアサポート活動、本人交流会での講演 ○ 市町村、企業、学校での講演会や出前講座での講演 ○ 認知症サポーター養成講座やフォローアップ講座での講演 ○ 広報誌、広報映像への掲出 など
京都府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府や市町村が実施する講演会等への登壇 ○ 企業が実施する認知症にやさしいサービスやモノの開発に関するヒアリング ○ 当事者作品展(写真家としての活動など)
兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県本人ミーティングへの参加継続 ○ 他府県の当事者等との交流 ○ 県主催の会議(健康づくり審議会認知症対策部会・若年性認知症自立支援ネットワーク会議) ○ 当事者からのメッセージ動画作成への協力 <p>※動画を通じた広い発信(ホームページ掲載、DVD 作成、商店街大型スクリーン・認知症疾患医療センター長等会議・関係団体主催の研修・企業向け研修等での動画上映)</p>

活動内容(機会や場)	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県主催の行政、医療介護関係者向け研修会での講師、 ○ 地元自治体のアルツハイマーデーポスター、広報誌への掲載等 ○ 県内市町主催の研修での講演 ○ 県内市町広報、世界アルツハイマーデーに関する啓発活動
香川県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力 ○ 認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力 ○ その他
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力。 ○ 認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力。 ○ 認知症ピアサポート活動への協力。 ○ その他、知事が必要と認める活動。
高知県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力 ○ 県が開催するイベント等での講演、広報誌等への寄稿、広報映像等への出演、その他の普及啓発活動 ○ 認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力 ○ 認知症サポーター養成講座の受講者の理解を求めることを目的に、キャラバン・メイトが講師を務める当該講座において、自らの体験や希望、必要としていること等を発信 ○ その他知事が必要と認めた活動 ○ 例:ピアサポート活動や認知症サポーターの活動(チームオレンジ)への協力、県内各市町村への派遣・事業協力、認知症の人と家族の会や認知症本人ワーキンググループ等の関係団体への協力等の活動など
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県の認知症普及啓発セミナーや研修会等への参加・協力 ○ 認知症サポーター養成講座への参加・協力 ○ 市町、関係機関が主催の研修会等への参加・協力
大分県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力 ○ 認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力 ○ 認知症ピアサポート活動への協力 ○ その他、知事が必要と認める活動

②管内市区町村での活動

大使の活動例

- キャラバン・メイト養成講座に講師
- キャラバン・メイト連絡会出席
- 認知症サポーター養成講座の講師
- アルツハイマー月間のイベント
- 本人ミーティング
- 認知症支え合いのまちづくり条例懇話会
- 世界アルツハイマー月間に係る講演会、啓発ポスター
- 広報誌への大使の記事掲載
- 認知症カフェ参加
- 認知症疾患医療センターにおける多職種連携会参加
- 認知症当事者の語り

- 民生委員を対象とした講演会講師
- 認知症カフェ研修のディスカッション
- 認知症普及啓発フォーラムのシンポジスト
- 県の認知症普及啓発セミナー
- 県若年性認知症研修
- 県若年性認知症支援ネットワーク会議
- 県 HP への寄稿
- ピアサポート活動(地域の集い参加者との交流や講演)
- 施策会議への参加による意見
- 写真の展覧会の実施 等

③キャラバン・メイトとの協働(活動事例の有無や今後について)

調査対象 14 自治体のうち、協働の実態「無」(把握していないを含む)との回答は、6自治体だった。具体的な活動事例は以下の通り。

活動事例

- 自治体のキャラバンメイト養成研修での講話(R2 年度)
- 大使がキャラバン・メイトとして認知症サポーター養成講座の講師をしている
- キャラバンメイト養成講座にて、大使のメッセージ動画を上映して紹介するほか各地での認知症サポーター養成講座で活用してもらうように DVD を配布
- 認知症サポーター養成講座にて講演。若年性認知症支援コーディネーターが講演する際に、併せて当事者として講演
- アルツハイマー月間の街頭啓発をキャラバン・メイトと実施

今後の予定

- 今後は認知症サポーター養成講座への登壇を予定
- 今後、サポーター養成講座への登壇などキャラバン・メイトと協働できるように周知をしていきたい
- キャラバン・メイト養成研修での講師や、キャラバン・メイトを対象にした研修で講師をしたことがあるが、キャラバン・メイトとの協働については今後、進めていきたい

④認知症地域支援推進員との協働(活動事例の有無や今後について)

調査対象 14 自治体のうち、協働の実態「無」(把握していないを含む)との回答は、4 自治体だった。具体的な活動事例は以下の通り。

活動事例

- 認知症サポーター養成講座の企画等
- 市主催の研修に参加
- 上記の活動については、市町村の認知症地域支援推進員等が調整
- 大使は、地域支援推進員とともに市内の認知症サポーター養成講座での講演、認知症カフェのボランティア活動への参加等をされている
- 地元自治体の認知症地域支援推進員が企画する認知症サポーター養成講座の講師、認知症カフ

エへの参加など

- 認知症カフェへの参加
- 本人ミーティングへの参加
- 講演への登壇など認知症地域支援推進員が中心となって調整を行っている事例がある。この取組を管内市町村へも広めていきたい。

⑤若年性認知症コーディネーターとの協働(活動事例の有無や今後について)

調査対象 14 自治体のうち、協働の実態「無」(把握していないを含む)との回答は、3 自治体だった。具体的な活動事例は以下の通り。

- 講演でのサポート(原稿内容の確認、同行)
- 市主催の研修に大使と対話形式で登壇
- 大使が講演する際や広報映像等へ出演する際の支援を行っていただいた(大使が話をしやすいように質問役になっていただくなど)。今後も積極的に協働していきたい
- 必要時、講話時のインタビュアーを若年性認知症コーディネーターに依頼
- 若年性認知症普及・啓発セミナーにて、大使とデイサービス管理者、若年性認知症コーディネーターとの三者対談を行った
- 現大使の活動の発端が、若年性認知症支援コーディネーターとの出会いと本人発信の取組への促しが契機となっており、コーディネーターの存在は大きい
- 若年性認知症支援センターへの委託事業として当事者グループへの支援があり、大使も診断後間もなくより参加を継続している
- 令和 4 年度からは若年性認知症支援センターの委託事業の中で本人ミーティングを実施しており、大使も参加している
- 希望大使の活動の支援者。大使の活動への同行・調整等
- 若年性認知症支援コーディネーター設置法人にピアサポート活動を委託し、希望大使がピアサポーターとして活動

⑥管内市区町村・団体等への希望大使及び活動の周知方法等

周知方法の例

- 市町村担当者と直接会う際の説明
- 事務連絡
- ホームページ上での紹介ページ作成や動画配信
- イベント出演
- メールによる情報提供
- 研修会等での紹介
- 市町村、認知症疾患医療センター、関係機関を対象とした自治体主催の研修や会議
- 各団体の会議や講演会
- 企業を対象とした認知症講座
- 医師会主催の医師向け研修等
- 自治体住民むけ情報番組(テレビ出演)

➤ 市町村担当者と直接会う際の説明

⑦大使の活動に関する依頼方法・手順等(窓口の有無、他)

多くのケースで、窓口は都府県の担当課が担っており、依頼者は活動依頼書等を提出する。依頼を受け付けた後は、大使の意思確認を行った上で具体的な調整に入るケースが多い。一方で、手続きを関係団体に委託している自治体もある。

また、活動依頼は必ずしも県を通さず、直接大使に依頼することを認めているとの回答もあった。大使活動としての活動を県として判断する一方で、多くの自治体が「大使の意向確認」を重視している様子が窺われる。

活動依頼方法の例

- 自治体担当課へ活動依頼書等を提出
- 管内市町村から事前相談票を提出→大使の内諾を得てから調整
- 大使のパートナーを通じて直接依頼
- 認知症の人と家族の会に委託(受付、日程調整、同行)

⑧大使活動への任命者(都県)側のサポート等の有(具体)・無

都府県担当者による支援内容の例

- 自治体担当者が同行等のサポートを実施
- 活動依頼者や大使、支援者等との連絡調整
- 打合せや活動の場への同席
- 派遣調整、旅程等の作成
- 大使の活動ニーズの聞き取りや活動支援
 - ・ 大使や関係機関等との企画調整
 - ・ 日程管理
 - ・ 大使の同行支援等
- 活動中の身体的・精神的なサポートが行える専門職団体に自治体から委託
- 体調を考慮し、活動頻度を月1回程まで制限
- 他自治体の大使、各地域の当事者の方との交流の機会を企画
- 公用車による移動支援
- ケアマネや市町担当者への情報共有
- ピアサポート活動等への経費負担(予定)
- 推薦団体にサポートを依頼

⑨大使本人への活動に対する報酬の有・無

大使への報酬の支払いについては、調査対象都府県の全てで報酬を支払っているが、多くのケースで活動を依頼した市町及び団体等が支払うルールになっている。

また、自治体等の主催によるイベントについては、報償費等が規定に基づいて支払われる場合があるが、大使活動に係る予算が確保されていない自治体もある。

⑩大使本人の活動に関する経費(交通費等)支払の有・無

大使の活動に係る経費(交通費等)についても、報酬と同様に多くのケースで活動を依頼した市町村及び団体等が支払うルールになっている。

設問4 希望大使の支援者・協力者について

①協力者・支援者の主な役割

大使の協力者・支援者:主な役割の例

- 打合せや活動の場への同席
- 活動や打ち合わせの日程調整
- 大使との連絡窓口
- 講演会時の資料作成等準備
- イベント時の付添い等
- 活動時の移動支援
- 講演会や研修会時の登壇によるサポート
- 質疑のサポート
- 大使の発言を引き出す役 等
- 講話時のインタビュアー役
- 精神面・身体面のサポート
- オンライン環境の整備

②協力・支援者への報酬・交通費の支払いの有・無

大使の協力・支援者に対する報酬の有無について、大使と同等の対応としている自治体があるものの、回答14件のうち5件については、支払い「無」としている。

「自治体主催の活動以外は依頼元の基準による」としているケースもあり、大使活動を支えている協力者への対応は地域によって異なり、協力者の善意に頼っている側面も否めない。

設問5. 希望大使の事業効果と今後の展開・計画等について

①任命してよかったと思う点

地域にどのような効果が生まれているか:自由回答

- 大使の参加したサポーター養成講座の受講者からは、「認知症本人の話を聞いて貴重な機会だった」「今後ご本人と接するときのヒントとなった」などの声が聞かれた
- 大使の存在によって、話を聞いた方が、認知症に対する見方や、捉え方について良い方向に変わっていくと思われる
- 支援者の方より「大使のイベント出演がきっかけで交流が生まれ、地域の活動が活性化された」とのお話もいただいた
- 認知症本人からの思いを聞くことにより、より認知症に対する理解が深まる。また、認知症に対するネガティブなイメージ、偏見の払拭に繋がっている
- 認知症の本人発信の取組が、全国で展開されていることが、行政としても進めている施策であることが住民等に伝わりやすい

- 認知症の方ご本人が元気に活動されていることが広く自治体内に周知されるようになった。また、市町村等の関係機関が大使の派遣により「認知症の方ご本人に発信していただく」場を設ける機会が増えたと感じる。講演会などでは、参加者から「明るく前向きな考え方に元気をもらった」等の反響がある
- 「本人の希望を叶える支援」を地元市の生活支援関係者とともに考える機会に繋がりがつつある。
- 全てをオープンにされていることによって「〇〇さん(大使)に会いたい」と他の当事者にとっては本人ミーティング等社会参加のきっかけになっている
- 自治体の担当者等、施策を推進する関係者の理解を促進し、勇気を与えて認知症施策全体を推進する牽引力となっている
- 委嘱式を新聞やメディアで取り上げてもらうことにより、精力的に活動しているポジティブな認知症当事者の姿を、広く自治体の住民に対して広報することができた

②現在の課題・注力したい点

【自由回答分類】

カテゴリ	内容
大使の状況の変化への対応	大使の状況が変化しても長く続けられるサポートを考える必要がある
	大使の病状等の変化に伴い制限がかかってしまった
	大使の生活状況が変化し依頼できなくなった
	活動の際の本人のサポート方法の検討
本人発信のあり方の再考	普及啓発の方針が定まらず大使任命後の協力に繋がっていない
	希望大使事業以外で活躍している本人に光があたりにくくなった
大使の人数の不足	本人に出会えないという市町村からの声
	本人と支援者への負担が偏っている
	依頼が増えて大使の負担が増している
	新しい大使候補が見つからない
	大使の人数を増やしたい・大使が足りない
	市町村からの依頼に比して需要と供給のバランスが取れていない
本人発信の機会の拡大	大使の活動地域の段階的な拡大
	本人の思いをより広く発信する
	市町村でも事業を広げることが期待されている
	本人の活動の場の広げ方の検討
	活動機会の拡大
	大使活動について市町村や関係機関への周知が足りず依頼が少ない
都道府県担当者の活動の展開	各地域の担当者は大使の活動をもっと発展させてほしい
	商品やサービス開発に本人の意見を反映させる
	担当者が大使の派遣スケジュール調整役にとどまっている
順調に進んでいる	

③今年度(令和4年度)のこれからの展開(計画や予定)

行政としての新たな展開や方向性について

- 認知症当事者の様々な思いや活動を広く発信すること
- 企業や大学等と連携した、認知症当事者の意見を反映した商品やサービスの開発を行う
- 日本認知症本人ワーキンググループの地域版認知症希望大使の普及推進と活動支援に関する調査研究への協力を通して、大使や当事者発信の考え方について検討し、そのプロセスについて県内の市町、認知症疾患医療センター等へ情報発信できるよう取り組みたい

具体的な取組予定

- 新たな大使の任命
- 大使のインタビュー動画を撮影し、自治体の研修や関係機関の研修等で配信することを予定
- 9月21日のアルツハイマー月間への協力
- 自治体の計画として、管内5圏域のそれぞれの圏域に1人ずつ認知症希望大使を設置する目標
- 市町村への派遣
- 令和4年度第2回本人ミーティングの企画
- 自治体住民むけ情報番組への出演を調整中
- 大使同士の交流会の開催
- 認知症普及啓発セミナーへの参加・協力
- 市町村担当者や府内の支援者などに大使について広く周知:フォーラムを実施予定

大使の具体的な予定・計画

- 広報誌や動画での本人発信
- 職能団体開催の勉強会に登壇予定
- 市町村のイベントへの出演
- 全国認知症希望大使交流会への参加
- 認知症疾患医療センターでのピアサポート研修会(他自治体の当事者による講話と意見交換等)
- 認知症サポーターのステップアップ研修などの講師としても活動予定
- 若年性認知症フォーラムでの登壇
- ピアサポート活動

④次年度以降の方針/見通し

方針・見通し:自由回答から抜粋

- 自治体住民の方に希望大使について、広く認知してもらえるように、周知活動に力を入れていく
- 認知症当事者の様々な思いや活動を広く発信する
- 来年度も令和4年度同様、専門職団体が大使の活動を支援予定
- 大使の人数を増やすことを目的にするのではなく、当事者の方の発信や社会参加を促進するための土壌づくりに注力しながら、市町等関係機者から情報を得て本人の意向をタイムリーにつかみ新たな大使の委嘱につながるよう取り組んでいく
- 本人ミーティングのあり方の検討、各地域の当事者の発信力の底上げ、各市町村の取組との連動、認知症疾患医療センターにおけるピアサポートの促進、行政・医療・介護関係者だけではなく広く普

及啓発をするなど社会の認知症観の転換を図る取組の推進など

- 大使を取り巻く関係機関の支援者との意見交換も通じて、大使活動のあり方の模索をしていきたい
- 普及啓発においては、県等の普及啓発に対してご協力いただく機会を増やし、本人発信の機会を増やすとともに、委嘱している希望大使自身や希望大使制度自体の認知度を上げていく。
- ピアサポート活動等により、当事者同士の輪を広げていく
- 希望大使ご本人の希望する活動のサポート
- 自治体が主催する普及啓発活動への協力

＜希望大使未設置道府県対象調査＞

設問1 認知症の人本人が、自らの言葉や希望を持って暮らす姿を発信していくことへの支援(本人発信)について

①本人発信支援を目的に、自治体(道府県)として直接実施している事業について

実施の有無	回答数	(%)
① 有	15	45.5%
② 無	12	36.4%
③ 計画中	6	18.2%
計	33	100%

①-1「有」と回答の具体的な事業内容(抜粋)

- 出張どこでも認知症カフェ(認知症の人と家族の会支部へ委託)
- 若年性認知症相談・支援センターにて、本人や家族の交流会を実施
- 認知症の人やその介護家族を支援するため、無料電話相談や交流集会、相談会
- 地域住民を対象とした研修会や体験発表など
- 認知症の人の活躍推進事業
- 認知症ピアサポーター養成事業
- 認知症ピアサポーターの活動の場づくり事業
- 認知症当事者とともに、市町村や関係団体等が開催する相談会、講演等への支援
- 認知症当事者とともに、市町村や関係団体等が実施するピアサポート活動の企画・運営補助等
- 認知症当事者とともに、認知症の理解・啓発促進に有効な情報発信等
- 当事者同士による意見交換、当事者の話を関係者等が聴講することなど
- 「認知症フォーラム」での、登壇又はビデオメッセージによる体験発表
- 他県の若年性認知症当事者の方の講演会と本人ミーティングを開催し希望大使や本人発信について当事者に知っていただく機会を設けた
- 若年性認知症ピアサポート体制構築事業
- 認知症本人の社会参加支援として、自治体内外での活動発表等を支援(旅費等)
- サポーター養成講座やキャラバン・メイト研修、チームオレンジ研修等に認知症本人の講師起用
- 若年認知症サポートセンターによる広報誌の発行
- 悩みを共有するための認知症当事者同士の交流会の開催
- 世界アルツハイマーデーに合わせた本人講演会の開催
- 認知症当事者による講演会
- イベントの実施(認知症ご本人、ご家族のトークイベント等)

①-2 事業の企画・実施に関して課題と感じていること

【「有」と回答の課題意識(抜粋)】

- 本人ミーティングを実施する市町を増やしていくという趣旨で実施しているが、予算やマンパワーの制約により年間3市町村の開催にとどまっている
- 進行性の疾患であり状態が変化する可能性があることや、自治体が本人や家族と直接かかわる機会自体が少ないことなどから、希望大使任命はハードルが高いと感じている
- 本人発信に関して「希望大使」の候補はいるも、家族の同意が得られず任命には至っていない
- 認知症に対して負のイメージが強く、発信する活動に関して理解を得ることが難しい
- 事業の継続性
- 事業に興味を持っていただける方の把握
- 本人の体調に応じた配慮が必要
- 本人発信ができる状態の方(初期段階の方)は、まだ自身の病気のことを受け入れられていない状態であったり、不特定多数に向けて発信することに抵抗があったりする方が多いと感じている
- 広域(二次医療圏域や自治体全域)で本人発信等の活動ができる者の把握”
- 認知症本人の情報発信に協力するパートナーの人材確保など
- 本人発信の支援については、本人発信を希望される方が現れた際に実施することとしているが、本人が急遽体調不良等になれば代役がない
- 氏名等非公表にする場合のマスコミ対応

【「無」と回答の課題意識(抜粋)】

- 本人の希望や町づくりへの要望をすくいだすことが難しく課題となると考えられる
- 自らが認知症であることを外に知られることを前向きに考えることが難しいため活動につながらない
- 本人発信の活動が可能な認知症進行度の方がちょうどいるかどうか、またそういった方が居たとしても症状の進行によって活動が難しくなってしまうことがある
- 活動していただくにあたって、ご本人へのバックアップ体制が必要。行政だけでなく、家族、支援者等の協力や支援が必要だと感じるため、支援体制がとれるかどうかは課題
- 県内で活動されている認知症本人の方の把握方法
- 管内市町との役割分担
- 関係団体との調整”
- ご本人の参画と関係機関の協力

②本人発信支援を目的とした、管内市町村・団体への支援策等(協働形態を含む)

実施の有無	回答数	(%)
① 有	8	24.2%
② 無	22	66.7%
③ 計画中	3	9.1%
計	33	100%

②-1「有」と回答の具体的な支援策(抜粋)

- 自治体内の市町・家族会・学校の本人発信支援の依頼に対して、自治体は活動を希望するご本人と調整を行ったり、必要な場合には、ともに発信活動(対談形式で、本人のメッセージを発信)を行っている
- 市町村が希望することによって、アドバイザー派遣を行っています。市町村が、本人発信支援の内容で希望されれば、アドバイザーが市町村へ出向き、助言をしてもらっていますが、本人発信支援での希望は今までありません
- 令和3年度の認知症地域支援推進員、キャラバン・メイトフォローアップ研修において、他県の認知症本人大使と地域支援推進員に講演してもらい、市町村が今後どのようにして本人発信支援をすればいいのか助言していただきました
- 「認知症当事者同士の交流会」が身近な地域で開催されるよう、市町村に対し、企画や運営に係る技術支援を実施
- ピアサポート活動についての学習会を実施。技術支援を受けたい市町村に対し、地域での本人交流会の開催を通じて助言等を行う
- 実施方法として、各市町で開催している認知症カフェの場に出張する形で開催しており、本人発信、本人ミーティングの実施に向けた関わりやノウハウ等を市町関係者に得ていただく場としている
- 当事者による支援内容:認知症当事者、家族交流会や相談会、認知症支援事業(認知症カフェ・本人ミーティング等)の企画への助言または相談支援
- 認知症当事者・家族支援をテーマとする講演会の企画への助言または講師としての支援
- 市町村等が企画するピアサポート活動への助言(企画・運営・立ち上げ、見直し)
- 若年認知症ネットワーク会議等を通じた情報発信についての意見交換など
- 本人ミーティングや認知症高齢者・家族交流会等の行事を、開催地の市町村と共催することにより、市町村に開催のノウハウ等を伝達し、市町村独自の開催に繋げている

②-3「有」と回答の支援策等に関して、課題と感じていること(抜粋)

- とともに活動を行えるご本人に限られる
- 研修等の講師として活動する際には、ご本人の言葉を引き出したり、補完しながら伝えることも必要な場合もあり、ご本人に寄り添い共に活動できる体制づくりが必要
- 県内の市町村が困難だと感じていることをきちんと把握できておらず、また市町村においても本人発信支援についての考え方に差があると感じます。市町村が求めていることを掴んで、その内容を研修会につなげていきたいです

- 管内市町村への調査では、本人交流会について「立ち上げ・運営の手法が分からない」「立ち上げ・運営の手法等に関する助言がほしい」と回答した市町村があったが、実際に技術支援を希望する市町村はなかった。市町村のニーズと実際のギャップがあり、本人発信支援について何を求めているのか、どのような事業を実施すればいいかが掴みきれない
- 県の役割、市町村のニーズ等模索している状況
- 認知症カフェなど本人・家族の交流をすすめる事業は増えているが、講師などの一歩進んだ事業参加・協力状況は十分把握していない
- 市町村によって、認知症本人への関わりに濃淡がある。認知症本人との関りが薄いと、本人発信支援にまで繋がらない印象

設問2 本人発信活動等をしている本人情報の把握や、本人の認知症関連事業への参画について

①地域で活動している認知症の本人に関する情報や、その人の活動に関する情報の把握

実施の有無	回答数	(%)
① 有	18	54.5%
② 無	12	36.4%
③ 計画中	2	6.1%
④ 回答無	1	3.0%
計	33	100%

①-1「有」と回答の具体的な内容(抜粋)

- 市町村担当者や家族会等と情報共有を行っている
- 若年性認知症コーディネーターからの情報提供、ピアサポート事業の実施
- 自治体の事業(認知症カフェサミット、本人ミーティング)等での把握
- 市町村、認知症疾患医療センターへの照会
- 市町村への個別聞き取り
- チームオレンジに参画している認知症の人と家族の役割等について、市町村担当者を経由して情報を把握している
- 認知症の人と家族の会と協力して情報収集を図っている
- 国のHPや研修会や講演会等の案内で把握している
- 今年度、各市町村へのアンケート調査を実施中
- 家族の会を通して、本人発信を行う「希望大使」の候補者の情報を把握している
- 市町村の認知症施策担当者と情報交換しているが、全市町村を把握できていないわけではない
- 委託先との情報共有(認知症高齢者等介護家族支援事業、若年性認知症施策総合推進事業、ピアサポート活動支援事業)
- 自治体実施の市町村認知症高齢者等支援取組状況調査
- 若年性認知症支援コーディネーターからの聞き取りやつつどいへの参加

①-2 情報の把握に関する課題

【「有」と回答の課題意識(抜粋)】

- 担当者等と話ができる機会が多くないため、管内全域の情報を得ることは難しいと感じる
- 認知症施策に協力いただける本人の数が少ない
- とともに活動する仲間を増やしていけるよう、参加を呼びかけるツールを作成する等呼びかけられると良いと感じている
- 市町村も希望大使という遠慮がちな雰囲気であり(国や他都道府県が任命している本人大使のような活動はできないかも・・という思いになり)、本人の情報を県に提供することを躊躇している
- 今年度、アンケート調査(認知症施策主管課を通じて地域包括支援センターへ確認を取ってもらうよう依頼)実施しているが、市町村以外で活動している本人情報の把握が難しい
- 網羅的・定期的に聞いているわけではないので、把握漏れの可能性がある
- どんな経緯で任命まで至ったのかという話を聞いてみたいと思う
- 市町村単位で活動されている方の情報が把握できていない
- 潜在している本人の情報把握(本人発信活動等をしておらず、家族の会をはじめとする関係機関と接点がない場合、情報把握が難しい)
- 市町村の積極性に差がある
- 個人情報の共有の範囲など

【「無」と回答の課題意識(抜粋)】

- 既に活動している個人単位の情報については、自治体で集約するしくみがないため情報の把握ができていない
- 本人発信について、自治体の認知症施策の中でどう位置付けるか未検討であり、今後の課題と感じている
- 市町村の認知症施策の取組について、把握しきれっていない
- 本人発信活動等をしている方の情報が収集できていない。
- 市町村や若年性認知症支援コーディネーターから情報の把握を依頼する場合、情報元の業務負担が増える
- 情報把握に係る連携の仕組みがない。
- 各市町村の実情が分からない。地域版希望大使の任命を検討し、各市町村にて候補の方をご存知ないかアンケートを実施。「知らない」との回答であった。どこに適任と思われる認知症の本人がいるのか、誰にどのようにあたればいいかが分からない
- 自治体が本人や家族と直接かかわる機会自体が少ないことから、情報把握は難しく感じている。
- 本人・家族の団体や市町村等からの情報を得るためにどのようなアプローチしてくか決めていない
- 開催希望者や参加希望者がいないこともあり、本人参加の交流会が開催されている地域自体が非常に少ないため、それに伴い活動に関する情報の把握も困難
- 適任者を探しているが、把握が困難

②自治体認知症関連事業への認知症の本人の参画(事業企画や実施・運営等への関わり)

実施の有無	回答数	(%)
① 有	12	45.5%
② 無	15	36.4%
③ 計画中	6	18.2%
計	33	100%

②-1「有」と回答の具体的な内容(抜粋)

- 本人ミーティング実行委員会へ参加し、意見を述べる
- R4 年度に本人大使を委嘱し、R5 以降は認知症普及啓発のためのポスターや動画を作成予定
- 認知症施策推進会議にて委員を委嘱しています。自治体の施策への要望を聞いています
- 自治体が主催する本人視点に立った施策等を学ぶセミナーでご本人の立場でメッセージを発信いただき、本人視点での受講者の取組みにもコメントをいただいている
- 家族会を介して、本人等の意見を把握し、可能なことから施策に反映している
- 研修会や講演会等の案内を共有している
- 委託事業を通じてピアサポーター(当事者)の方の意見・考えを伺っている
- 「若年性認知症の人の就労・社会参加のための検討会」に委員として参画
- ピアサポート活動の実施
- 本人講演会での登壇
- 認知症本人ミーティング実行委員会への参画
- 若年認知症ネットワーク会議への参加

②-2 本人の参画に関して課題と感じていること

【「有」と回答の課題意識(抜粋)】

- 認知症の本人が自らの言葉を発信したり事業に参画するためには、本人が信頼する人であったり、安心して声を出せる環境があってこそであり、そういった環境は地域の普段の活動から作られていると感じる。各市町村で行われている認知症カフェやチームオレンジの取組が進められた先に実現できる事と思うため、まずは関わる者の意識を変えていく事が課題であると思う
- 本人の認知症への認識や参画にあたってどこまで協力いただけるか、参加にあたってどの程度支援が必要になるか等を事前検討する必要がある
- 今、活動いただいている方以外の協力者がいない
- 直接アプローチするための手段がない
- 自治体内の方で発信できる当事者の方がなかなかいないため、難しいと感じている
- お一人の意見にとどまっているので、他の当事者の方たちの意見・考えを聴く機会自体が不足している
- 事業への参画について、思いを共有できる当事者仲間が自治体内にはまだ少ない
- 委託事業における当事者の実際の活動状況の把握が十分ではない
- 認知症本人の移動対応

【「無」と回答の課題意識(抜粋)】

- 確定診断後のサービス利用手続きに時間がかかるため、認知症施策関連施策に参画する余裕がない
- どのように参画いただくことが適当か検討中
- どこに適任と思われる認知症の本人がいるのか、誰にどのようにあたればいいかが分からない。
- 本人や家族の伝えたい思い等がないと、事業等の参画はハードルが高いと感じている
- 事業の企画に至っていないが、参画いただける場合の活動内容等を検討していく必要がある
- 現状は本人の参画について希望されている本人がいない(把握ができていない)ため計画を立てることができない状況
- 家族会には施策の企画について助言をいただいているが、本人発信いただけそうな認知症ご本人の方を把握できておらず、本人参画までは至っていない
- 認知症は進行性であることから、継続的に参加していただくことは困難です
- 参画することが認知症本人にとって負担となる可能性
- 報酬の予算要求
- 自治体内広域的に参画できる人の把握

【「検討中」と回答の課題意識(抜粋)】

- 任命したとしても、イベントや講演会等の規模が大きい活動や人前に出る必要がある活動については、ご本人の希望になじまない場合が想定される(ご自身の得意なことやできる範囲でのことを最優先に活動していただく予定)
- 参画してもらおう本人の候補となる人を見つける手段及び参画の方法
- 会議等へ参加いただく際のフォロー体制。
- 会議等の公の場で当事者として発言することについて、本人がまだ抵抗がある
- 本人の元々の性格(表に出たくない、周りに知られたくない等)や、症状の進行スピード、周囲の支援体制等を考慮していかなければならない

設問3 地域版希望大使の任命について

①任命の予定

実施の有無	回答数	(%)
A:今年度	4	45.5%
B:次年度以降	3	36.4%
C:時期は未定だが検討中	15	18.2%
D:予定・検討なし	8	18.2%
回答無	3	9.1%
計	33	100%

②任命(計画)を進めるにあたって管内の連携や協力を得たいと考えている機関等とその理由

【今年度及び次年度に計画有の回答(抜粋)】

- 市町村(地域包括)、本人/家族の団体、認知症疾患医療センター、若年性認知症コーディネーター、事業者団体
- 自治体が認知症の本人との関りが少ないことから、関係団体等を通じた啓発活動に意欲のある方の掘起こしが必要なため
- 市町村(地域を一番把握しており、本人が生活するうえで市町村と一緒に本人の活動を応援していきたいから)
- 認知症の人と家族の会(当自治体から認知症の人と家族の会支部に認知症コールセンターと若年性認知症支援センター業務を委託しているから)
- 認知症疾患医療センター(当自治体では認知症疾患医療センターで確定診断を受ける方が多いから)
- 若年性認知症支援コーディネーター(若年性認知症の方へのきめ細やかな支援をしていただけるから)
- 本人/家族の団体、認知症疾患医療センターは、任命を予定している人にすでに関わっているため活動内容等についてそれぞれの立場からご意見いただきたい。また、大使の居住市町村担当者については、今後の活動等にも関わることが考えられるため事前に情報共有をする
- 家族会:ご本人の活動をともに行う協力者の役割
- 市町村(地域包括支援センター含む):活動を希望するご本人の推薦
- 認知症疾患医療センター:活動を希望するご本人の推薦
- 現在の候補者については、若年性認知症コーディネーターと連携し、任命を予定している

③任命(計画)を進めるにあたり課題と感じていること

【自由回答分類表】

テーマ	カテゴリ	内容
大使候補者の把握から大使の任命に関する課題	大使候補者が見つからない	発信の段階にいる人がいない
		大使候補者の把握
	大使就任を打診するが断られてしまう	他県の大使活動が候補者の心理的障壁になっている
		当事者が人前に出ることへの抵抗への対応
		大使活動を希望する人が現れていない
	選任プロセスが不明	選任方法のプロセスが分からない
		大使任命までのプロセスの明確化
	病気が進行した時の大使交代のプロセスが不明	任期の定め方
		県担当者は状況把握が難しいので任命に関する管理が困難
	本人・家族の理解を得ることの困難さ	大使活動に対して家族の理解が得られない
家族の理解を得ること		
本人・家族・関係者間で公表の範囲や活動範囲につ		

テーマ	カテゴリ	内容
		いて十分に検討すること
事業実施に関わる課題	本人の状況の不確実性に合わせた事業実施	本人の参加の不確実性を織り込んだ計画作り
		本人の体調を考慮した調整
		大使候補者の体調に合わせて任命を進める
		本人の体調の不安定性
	本人発信活動を支える体制づくり	任命後の大使のマネジメント方法が不明
		大使活動を支える体制づくり
		病状の進行に伴う適切なサポート
		本人発信活動とプライバシー保護の両立
	本人の意向を尊重した活動	大使候補者の活動範囲の把握
		活動について本人の意思が尊重されるよう調整する
		認知症を公表したくないという本人の意向
	関係団体との調整	病状の進行を見据えて定期的に関係者間で話し合いを行うこと
		各関係機関との協議プロセスが不明
県と市町村との役割分担		
県担当者と本人との接点の少なさ	県担当者では大使の状況や病状の把握が困難	
新型コロナの影響による活動の制限	新型コロナの影響による活動の制限	
本人発信しやすい地域づくり	活動を希望する人が出てくる環境づくり	本人主体の関連事業が進んでいないため候補者が見つからない
	地域への認知症に関する啓発	大使活動に対する地域の理解
		認知症の啓発の推進
多様な本人発信方法の再考	大使活動以外の多様な参加のあり方を示す	大使活動とそれ以外の本人発信の違いはあるのかの検討
		希望大使以外の多様な本人発信活動の認識を高める
	大使活動への過度な期待への懸念	メディア露出により本人に負担をかけているとの指摘がある
		大使活動への過剰な期待があるとの指摘がある
都道府県からのビジョン提示・声を活かすしくみづくり等	事業の方針の提示	県が本人発信事業の方針を示す
	本人の声を生かす仕組み作り	本人の声を生かす仕組み作り
	大使活動の機会の創出・開拓	大使活動の機会の創出・開拓
	任命を目的化しない	大使任命が目的になってしまう懸念

④任命(計画)を進めるにあたり、知りたいこと・参考にしたいこと(抜粋)

<準備段階>

- 本人との接点作り(活動している人や活動したいと考えている人の把握)
- 潜在している候補者の把握・募集・選任方法
- 希望大使になりたいという方の発掘方法
- 本人との接点作り、市町村や関係団体との協議事項・進め方、募集・選任方法
- 任命にあたっての合意形成(本人、その家族、支援者との意見交換、合意形成等)
- 市町村と連携した募集・選任方法に関する事例
- 公の場で発信してみようという気持ちへもっていく方法
- 任命までの具体的なプロセス
- 大使の活動内容の決定方法など任命までのプロセス”
- 家族への説明から了承を得るまでの具体的なプロセス
- 先行して地域版本人大使を設置した自治体の情報がワンペーパーにまとまっているとありがたい
- 具体的な活動内容

<任命後の支援体制等に係ること>

- 活動の際の伴走者はいるか、伴走者は誰に頼んでいるか
- 希望大使の活動を支える体制
- 任命後の活動内容や本人の状態(意欲的に活動いただけているか等)
- 活動に際してのサポート体制
- 本人の活動を予定していたが、急に体調が悪くなった場合、どのように対応しているか
- 希望大使のプライバシー保護等の取組”
- 活動の依頼があった場合、事前の打ち合わせ～当日まで謝金や旅費はどこまで対応すべきか(前準備も含めて)
- 認知症が進んでしまうと希望大使の活動も難しくなってくると思うが、どのように見極めて任命しているか?どのように説明しているか
- 活動スキーム

<関係する機関や市町村との連携・役割分担等>

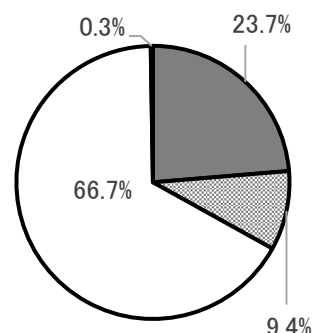
- 関係団体との協議事項、進め方
- 自治体と市町村の役割分担
- 市町村や関係団体等との協議事項及び進め方
- 本人発信による普及啓発の効果と不利益

(2) 希望大使設置都府県管内市町村等調査

問1 貴市町村事業への「希望大使」の参加・協働について

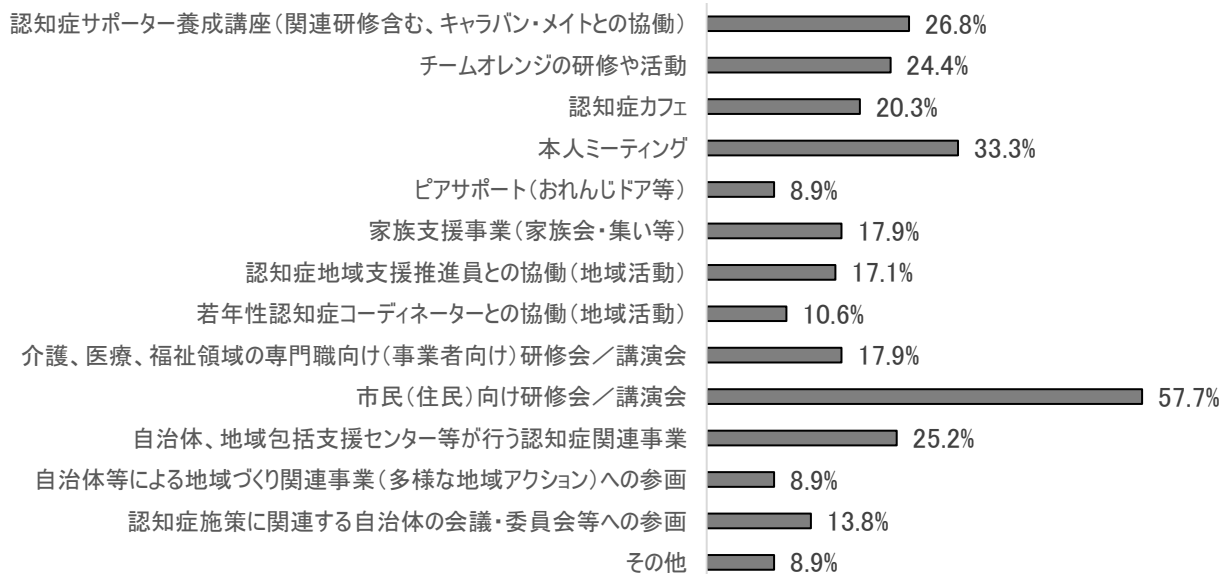
(回答数)	全体	
	回答数	割合
これまでに参加・協働したことがある	88	23.7%
今後、参加・協働する予定や計画がある	35	9.4%
予定や計画をしていない	248	66.7%
無効回答	1	0.3%

- これまでに参加・協働したことがある
- 今後、参加・協働する予定や計画がある
- 予定や計画をしていない
- 無効回答



問1-1 参加・協働の具体的な機会・場

	N=123(複数回答)	回答数	%
1 認知症サポーター養成講座(関連研修含む、キャラバン・メイトとの協働)		33	26.8%
2 チームオレンジの研修や活動		30	24.4%
3 認知症カフェ		25	20.3%
4 本人ミーティング		41	33.3%
5 ピアサポート(おれんじドア等)		11	8.9%
6 家族支援事業(家族会・集い等)		22	17.9%
7 認知症地域支援推進員との協働(地域活動)		21	17.1%
8 若年性認知症コーディネーターとの協働(地域活動)		13	10.6%
9 介護、医療、福祉領域の専門職向け(事業者向け)研修会/講演会		22	17.9%
10 市民(住民)向け研修会/講演会		71	57.7%
11 自治体、地域包括支援センター等が行う認知症関連事業		31	25.2%
12 自治体等による地域づくり関連事業(多様な地域アクション)への参画		11	8.9%
13 認知症施策に関連する自治体の会議・委員会等への参画		17	13.8%
14 その他		11	8.9%

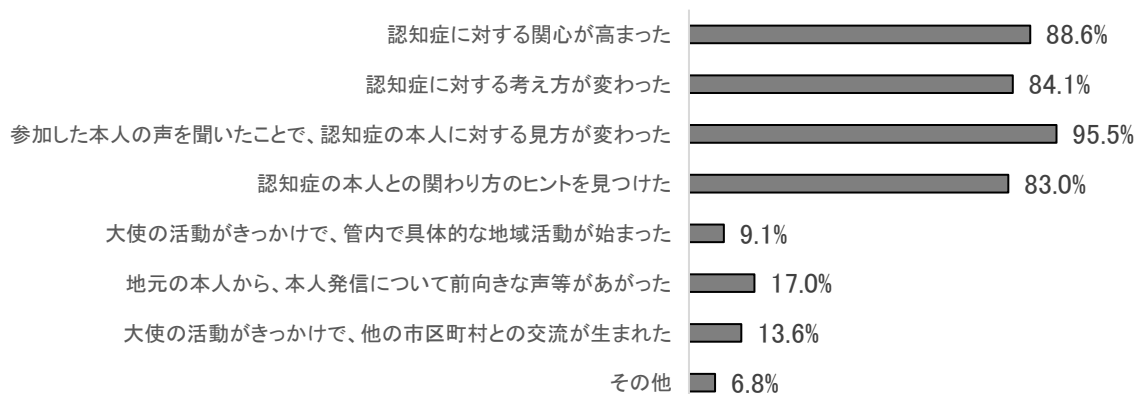


【その他の自由記述】

その他の内容
R3 年度、生命保険会社職員向け研修での講演会を実施(生活支援コーディネーター経由)
一般住民、介護医療福祉職員合同の講演会
第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の認知症施策策定に向けて意見を伺う予定
チームオレンジ立ち上げのステップアップ講座で話をしてもらった。
市民団体が開催する講演会へ参加いただき、市として講演会の開催支援を行った。
認知症サポーターステップアップ講座での講演・トークセッション、市キャラバン・メイトフォローアップ研修での講演・トークセッション、動画撮影
本人ミーティング研修会
県内短期大学の講演会の講師として依頼・調整
認知症サポーターリーダー現任研修
家族会の依頼により、ピアサポート等でご参加いただいたことがある。(市からの依頼ではありません。)
有線テレビ出演

問1-2 地元の本人が参加したことによる参加者や関係者の反応

	N=88(複数回答)	回答数	%
1 認知症に対する関心が高まった		78	88.6%
2 認知症に対する考え方が変わった		74	84.1%
3 参加した本人の声を聞いたことで、認知症の本人に対する見方が変わった		84	95.5%
4 認知症の本人との関わり方のヒントを見つけた		73	83.0%
5 大使の活動がきっかけで、管内で具体的な地域活動が始まった		8	9.1%
6 地元の本人から、本人発信について前向きな声等があがった		15	17.0%
7 大使の活動がきっかけで、他の市区町村との交流が生まれた		12	13.6%
8 その他		6	6.8%



【「5 大使の活動がきっかけで始まった地域活動」自由記述】

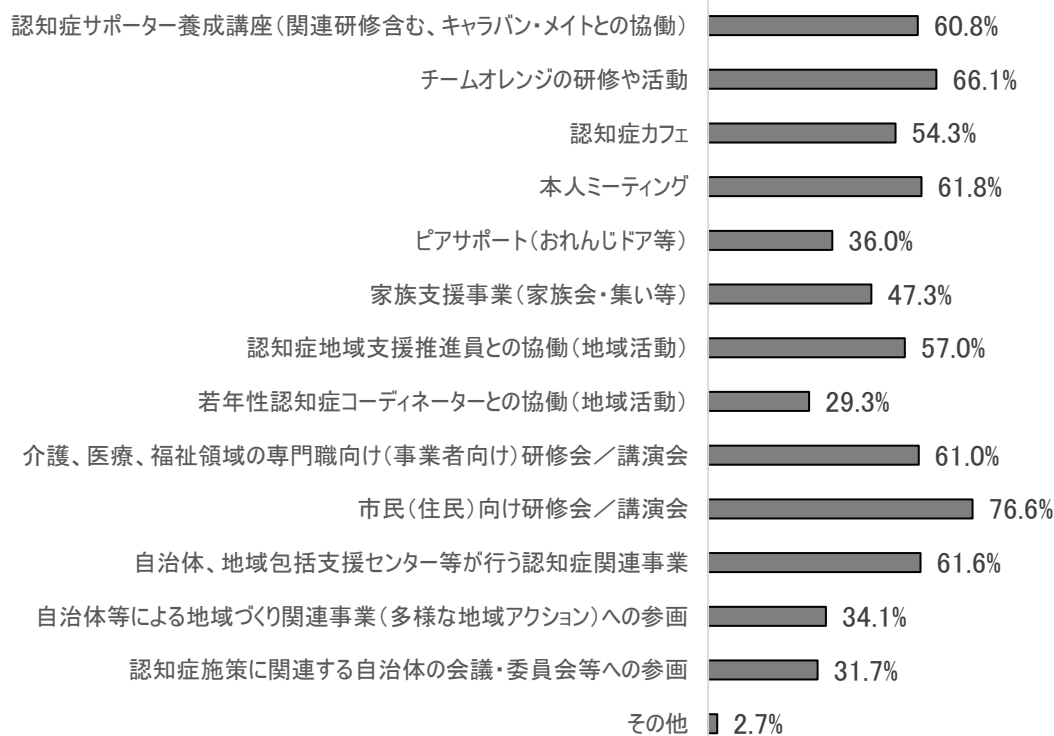
自由記述一覧(抜粋)	
1	若年性認知症の方対象のオレンジカフェの開催
2	チームオレンジのチーム員が本人ミーティングを企画する等意欲的な地域活動のきっかけとなった。
3	オレンジ大使以外の当事者も研修やイベントなどで発信する機会が増えてきた。
4	認知症カフェに対する大使の発言を聞いて、NPO や民生委員が認知症カフェを実施しようと考え始めている。
5	関わりが困難な認知症で孤立している高齢者のいる団地で、地域の民生委員や自治会長さん社協・包括が協働し地域づくりを考えるきっかけとなっている。
6	大使の講演をする機会が増えた
7	本人と認知症地域支援推進員との定期的な集まりを実施することができた(今後は住民や医療介護職にも参加の呼びかけをしていく予定)
8	当事者同士の出会いにより、定期的な本人同士の交流の場(本人ミーティング)ができた。

【「6 地元の本人から、本人発信について前向きな声等」自由記述】

自由記述一覧(抜粋)	
1	「普段、本人の声を聴ける機会がないため、今後も様々な場所で講演してほしい」とのアンケート結果が多数あり。
2	自分自身の経験を伝えることが今できる役目だと思うし、病気を知ってもらうことで広がりができるのもっと良い等、意見があがった。
3	本人発信の活動が本人の意欲につながっている。
4	本人交流会参加者から、自身も希望大使の方のように活動したいという希望がありました。
5	講演会の質疑応答の中で、軽度認知症と診断された方が、サロンの仲間には軽度認知症と診断されたことを話している、という内容の発言をされた。
6	「自分の住んでいる地区で認知症講座を開きたい」との声があった。
7	希望大使の話聞いて、認知症への考えが変わりました。たとえ認知症になっても幸せな生活が送れると思うと希望が持てます。
8	ご本人が日頃の思い等を発言し、今後の自身の積極的な活動につながった
9	本人ミーティングの要望があがった。
10	当事者会へ参加する当事者が増えた。
11	県と共催で「本人交流会(本人ミーティング)」を開催し、希望大使にコーディネーターとして参加いただいた。実施後に本人・家族に対し聴き取りを実施したところ、「また開催されるなら参加したい」「普段街中には出ないが、久しぶりに出たら楽しかった。」等の発言が聞かれた。
12	フォーラムで話をしてくださって以来、市内で声を伝えてくれる方が増えた
13	認知症当事者の方で、ご自身が体験したことを発信した方が良いのではないかと思うようになった方がいる。
14	希望大使との出会いや、本人同士の交流から、自分の思いを多様な形で発信する本人が増えてきている。
15	本人同士が出会ってつながり、「生きる力を沸き立たせて元気に暮らしていきます」との発言があった

問2 自治体として「希望大使」に関わってほしい事業等

	N=372(複数回答)	回答数	%
1 認知症サポーター養成講座(関連研修含む、キャラバン・メイトとの協働)		226	60.8%
2 チームオレンジの研修や活動		246	66.1%
3 認知症カフェ		202	54.3%
4 本人ミーティング		230	61.8%
5 ピアサポート(おれんじドア等)		134	36.0%
6 家族支援事業(家族会・集い等)		176	47.3%
7 認知症地域支援推進員との協働(地域活動)		212	57.0%
8 若年性認知症コーディネーターとの協働(地域活動)		109	29.3%
9 介護、医療、福祉領域の専門職向け(事業者向け)研修会/講演会		227	61.0%
10 市民(住民)向け研修会/講演会		285	76.6%
11 自治体、地域包括支援センター等が行う認知症関連事業		229	61.6%
12 自治体等による地域づくり関連事業(多様な地域アクション)への参画		127	34.1%
13 認知症施策に関連する自治体の会議・委員会等への参画		118	31.7%
14 その他		10	2.7%



問3 貴市町村の事業・取組みに、希望大使が参加・協働することに関して、課題と感ずること、促進につながるアイデア等

【課題】

自由記述一覧(抜粋)	
1	現在、市内在住の認知症の人に、本市の取組みにご参加いただくことを検討している。「希望大使」の参加・協働が、市内の認知症の人の参加に良い影響となるために、どのようにすればよいのかイメージがつきにくい。市内の認知症の人と、オレンジ大使が交流を持ち、本人発信の様々な経験を聴き、市内の認知症の人が1歩踏み出すきっかけとしたい。
2	認知症カフェ担当者や地域住民主体の団体が希望大使に依頼することは敷居が高く感じ、協働の実現が難しい。
3	希望大使の方が遠方に住んでいたり、働いていたりすると、参加・協働の調整が難しい。
4	各市町村での事業に希望大使の方が参加していただけることについて、すでに市町村に対して周知をしていただいていたと思いますが、認識が不足していました。人事異動で担当者が変わる場合もあるので、希望大使の方に参加・協力していただけることについて定期的な周知等をしてはどうかと考えます。
5	具体的に、希望大使が、どの様に参加・協働していただけるのか、把握できていない。
6	希望大使がどのようなことができるかがわからないため、どう協働してよいかわからない。
7	本市は、認知症の啓発(サポーターの養成)や、地域で認知症の人に関わる活動を行う”チームオレンジ”に繋がるメンバーの養成に力を入れている。県のオレンジ大使に講演いただいたり、一緒に活動するに当たっては当然、講演料や交通費が発生すると思うが、現状では、そのための予算をとっていない。
8	課題とまでは言えませんが、積極的に希望大使をお招きしたいと考える一方で、希望大使自身が発信力もあるため、認知症の方と接する機会のない方に対しては、当事者の代表のように写らないようにする配慮が必要と感じており、お招きする場にも配慮が必要な点。また、希望大使自身が就労されており、就労時のお話をお聞きできる点に魅力を感じますが、平日の出席が難しい点については良い解決策があればと感じています。
9	自治体側にどのように協働できるかのイメージが不足している
10	自区民ではなく、他区市に在住している方を、区イベントに「あえて」起用する説明(ストーリー)が思いつかないことが課題に感じます。
11	大使が非常に多忙であり、日程調整等難しい。
12	まだ、本人発信の必要性について理解されていないことが課題
13	「本人発信」できる事業や取組の整備が不十分である。
14	離島のため、直接参加・協働していただくのに時間、旅費を要する
15	社会参加(就労支援)への事業のための、他部署との連携が問題だと思います。
16	・希望大使の活動が、特別な活動をするような方のイメージになってしまうのでは？ ・認知症になることへの、不安が少しでも解消されるといいと感じます。

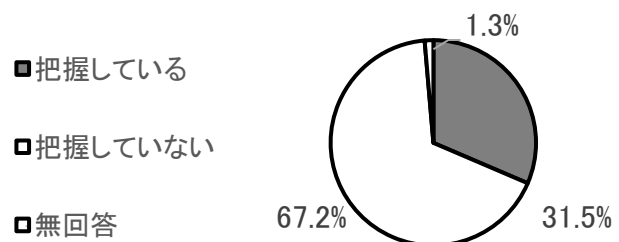
【アイデア】

自由記述一覧(抜粋)	
1	若年性認知症と老年期認知症については、課題について共通点もあるが相違点も多い。老年期の大使がいてもよいのではないかと。

自由記述一覧(抜粋)	
2	大使が認知症カフェに参加した当事者やその家族と交流することで、本人ミーティングの場となり、ピアサポーターとしても機能するのではないかと。
3	市で、チームオレンジ等の事業・取組みを認知症本人の意見を聞きながら進めていきたいが、話を聞ける認知症患者はほとんどいない。今後、研修等で大使の意見を聞ける研修等があるとよい。
4	大使の再就職が決まった後は、講演会等の依頼は土日祝のみに限定されるようになりました。原則自治体主催事業は平日で開催することが多いため、人員の調整が必要ですが、その反面、普段参加の機会の少ない働き盛りの年代の方が講座を受講いただけるなど、啓発の幅を広げることができ感謝しています。
5	行政としては本人の氏名等の情報を公開できれば今後の活動の幅が広がると考えている。
6	実際の参加・協働事例が分かると依頼しやすい。また、市町村のニーズと大使の能力や意欲に応じたマッチングをしていただけると活用しやすい。
7	大使にとって負担のない移動距離や時間の一覧があると依頼がしやすい。
8	若年性認知症コーディネーターを通じて、活動に参加できる本人の方を把握できるようにしたい。認知症地域支援推進員の定着と質の向上のための研修の受講が必要。
9	依頼するまでの手続きや費用面について事前に情報があればより活用しやすくなるのではないかと思います。
10	協働を希望して申込した結果、選外でした。希望大使の活動に限りがあることは承知していますが、可能であれば受け入れ枠が増えると促進につながるのではないのでしょうか。
11	「希望大使」の認知症の進行段階、お人柄、生活歴、得意なこと等を具体的に知らないと、どんな事業にどんなふうに関わってもらおうか企画・調整できない。一般的に講演会の講師を選定するにあたっては、講師の講演実績、参加者の反応、お人柄等から事業趣旨にあった先生を探すので、それと同じです。
12	希望大使になるまでの流れがわかりやすくあるといいのではないかと。
13	少人数で活躍いただいていますので、各市町村1名以上を目指していけたらと思います。希望大使の支援者のコーディネートもとても素晴らしいので、将来に向けて同伴で学びながらの後継者の育成も今のうちにしていただけると心強いです。

問4 貴市町村内で「本人発信」や「本人発信につながる活動等」に取り組んでいる人の把握

(回答数)	全体	
	回答数	%
把握している	117	31.5%
把握していない	250	67.2%
無回答	5	1.3%



問4-1 把握の方法

把握方法	N=117(複数回答)	
	回答数	%
管内の地域包括支援センターを通じて、把握している	76	65.0%
管内の介護サービス事業者を通じて、把握している	22	18.8%
認知症地域支援推進員を通じて、把握している	79	67.5%

若年性認知症コーディネーターを通じて、把握している	14	12.0%
医療機関および認知症疾患医療センターとの連携によって、把握している	14	12.0%
家族支援事業(家族会・集い等)を通じて、把握している	33	28.2%
本人からの相談等を通じて、把握している	26	22.2%
本人が参加する市町村事業等(認知症カフェ・本人ミーティング等)を通じて、把握している	77	65.8%
その他	8	6.8%

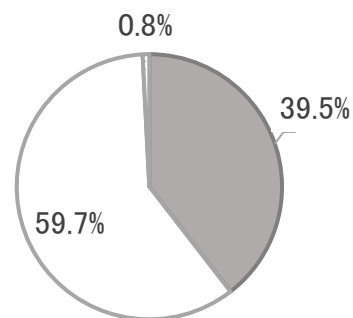
【その他の自由記述】

自由記述一覧(抜粋)
区認知症在宅生活サポートセンター(区委託)を通じて把握している。
生活支援コーディネーター(兼ケアマネジャー)
介護事業所が運営する認知症カフェにて希望大使に講演してもらおうとの報告を受けた。ただ、市への報告義務はなく、事業所が自主的に報告してくれたことで把握したものです。
本人が実施している自主活動

問5 現在、自地域内の本人とともに取り組んでいる事業の有無

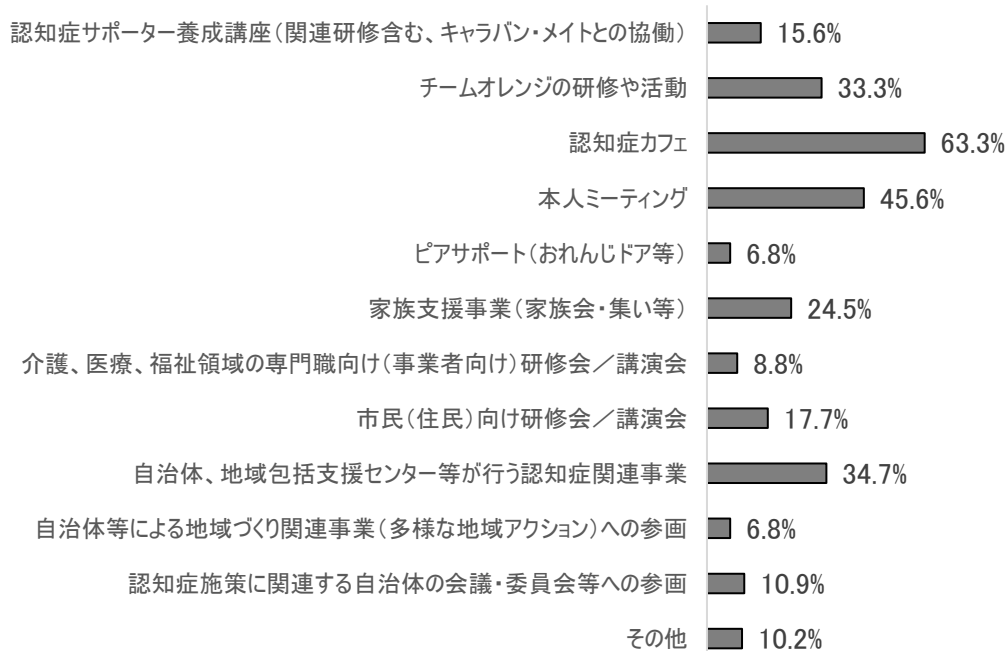
(回答数)	全体	
	回答数	%
ある	147	39.5%
ない	222	59.7%
無回答	3	0.8%

- ある
- ない
- 無回答



問5-1 自地域内の本人とともに取り組んでいる事業等

	回答数	%
認知症サポーター養成講座(関連研修含む、キャラバン・メイトとの協働)	23	15.6%
チームオレンジの研修や活動	49	33.3%
認知症カフェ	93	63.3%
本人ミーティング	67	45.6%
ピアサポート(おれんじドア等)	10	6.8%
家族支援事業(家族会・集い等)	36	24.5%
介護、医療、福祉領域の専門職向け(事業者向け)研修会/講演会	13	8.8%
市民(住民)向け研修会/講演会	26	17.7%
自治体、地域包括支援センター等が行う認知症関連事業	51	34.7%
自治体等による地域づくり関連事業(多様な地域アクション)への参画	10	6.8%
認知症施策に関連する自治体の会議・委員会等への参画	16	10.9%
その他	15	10.2%



問6 自地域での「本人発信」の推進について、課題と考えていること

【自由記述をカテゴリに分けて分類】

①発信できる本人が見つからない	
認知症への偏見がある	本人や家族に認知症への偏見がある
	地域に認知症への偏見が残っている
認知症を周囲に伝えられない	本人・家族の意向が異なる
	本人や家族の認知症の受容が進んでいない
	大勢の前で話をする段階に至っていない
	本人が自分の住む地域では発信したくないと考えている
事業の意義を理解してもらえない	本人や家族から本人発信事業への理解が得られない
	そもそも本人に認知症の自覚がない
	本施策についての関係者への周知や連携が十分ではない
本人の生活状況や体力等の支障がある	本人につながっても、生活の支援など優先すべき課題が多く本人発信に至らない
	本人に活動できる体力等がなく参加をためらっている
本人と知り合うための方策やしぐみがない	発信できる本人と知り合うためのノウハウがない
	診断初期段階で本人とつながれる仕組みがない
若い人や初期の人に限定しているために見つからない	若年性認知症の人と知り合えていない(若年性でないと発信は難しい)
	認知症の初期段階の人と出会えない(認知機能低下が進んでいるから事業に参画できない)
	高齢だと事業参加が難しい

②事業に着手する途上での課題	
「本人発信」を支援する行政側の人手や体制づくりが進んでいない	職員不足で事業が進んでいない
	既存の認知症支援事業で手一杯である
	コロナ禍でイベント参加が難しい
	本人発信の場・機会を設けていない
「本人発信」の意義が理解されていない	地域に認知症の「本人の声重視」の意義が浸透していない
	認知症の本人発信や事業についての周知が足りていない
	家族や支援者の声のほうが重視されている
	声を上げる本人は「特別な人だから可能なのだ」ととらえられている
	他地域の事例を紹介して本人や地域のモチベーションを高めたい
そもそも住民の主体的な活動が少ない地域性である	
事業の具体的な進め方がわからない	事業の進め方がよくわからない
	認知症の人の意思決定をガイドライン通りに正しくできているかわからない
本人の声を聞く姿勢やスキル不足	本人の希望を聞けていない
	高齢者の意見が聞けていない
	まだ家族にしか思いをきけていない
	支援者に本人の声を聞くスキルがない
	本事業に参加しやすいきっかけや場づくりが必要
地域の本人たちの意見を聞く途上	ごく一部の当事者の意見しか聞けていない
	まだ本人や家族との信頼関係構築の段階にいる
	自分たちの地域内の本人とつながらない(外から参加する人が多い)
	集いに参加する人が少ない
	既存の認知症カフェを活用できないか検討中
③事業を運営する上での課題	
本事業の位置づけや他事業とのつながり等に関する課題	現状や方針の整理
	他の事業との連携やすみ分け
	本人を中心とした支援者の連携づくり
	診断後支援の拡充
	本人発信の場に参加するボランティアの確保
本人の意欲や達成感を高め方に関する課題	達成感を感じてもらえるよう仕事を振るのが難しい
	本人や家族の意欲の高め方が分からない
	本人が望む活動の意向が把握できない
参加に伴う負担に関する課題	家族にかかる負担の軽減
	時間の確保、移動手段の確保
	独居・身寄りがなく参加のための支援が難しい
	発信できる人が少ないので特定の人に負担が偏る
リスク管理	本人の体調や病状等の変化で事業が左右される
	本人・家族が偏見や無理解にさらされた時のフォロー

	プライバシーや個人情報保護への懸念(犯罪・トラブルに巻き込まれないか懸念)
発信する本人や機会、手段を増やす必要性	在宅の当事者の発信の機会が十分でない
	発信できる人や場が限られている
	紙のパンフレット以外の発信手段の検討が必要

問7 今後の「本人発信」の推進における具体的な事業や取組み計画等

【自由記述をカテゴリに分けて分類】

①関連事業を活かした本人発信の機会づくり	
既存の事業等を活かして本人発信の機会をつくる	本人ミーティングなどを通じた他市町村との交流
	認知症カフェ等での本人発信
	本人の趣味の作品の展示を通じた活躍の場の提供
	本人協力のもと本人の声を動画にして発表
	本人が発信する場を増やす
企画運営への本人参画	認知症カフェ等での本人発信
	本人の趣味の作品の展示を通じた活躍の場の提供
	本人協力のもと本人の声を動画にして発表
	本人の認知症カフェ企画運営への参画
	事業企画に関する意見交換会への参加
	本人やってみいたいという活動を支援
	本人の声から新たな事業を作り出したい
	ケアパスの改訂への本人参画
SOS 模擬訓練での助言	
研修等の講師	本人によるチームオレンジ事業の講師
	本人による認知症サポーター養成講座の講師
②普及啓発を本人発信によって進化・深化を図る	
「本人の声重視」についての啓発	アイ・ステートメントを活用した普及啓発事業
	認知症の理解・本人の声重視を促進するイベント開催
本人の声を啓発イベントで発信	本人ミーティングで聞かれた声を啓発事業で発信
	当事者団体や民間企業と啓発活動を継続して実施中
希望大使等を招いての講演	他地域から当事者の講師を招いての啓発講演会
	県の希望大使を招いての普及啓発講演会開催
③発信する本人がつながるルート・方策の整備	
当事者の集いを通じて	認知症カフェ・本人ミーティング参加促進
	認知症カフェから認知症の本人を地域活動へリクルートする
	介護者交流会において本人発信の可能性のある当事者を探す
キーパーソンを通じて	家族との信頼関係作りを通じて本人とつながる
	地域のキーパーソンを通じた把握
医療との連携を通じて	診断直後に本人と出会える仕組み・環境づくり

④関係者への周知・連携・調整	
周知	関係者に向けた本人発信事業に関する研修の実施
	本人発信の意義をサポート者に周知する
連携	事業を推進するため関係者間の連携を強化する
他事業との調整	他事業に本人発信支援の取り組みを絡める
	本人を中心に据えてチームや仕組みを整えるべき
	関係する部署と調整し本人発信の機会を設定する
⑤本人の声を聞く	
本人の声を聞く	認知症カフェ等で本人の声を聞く
	まず一人の本人に話を聞きに行く
	本人家族の声を生かした取り組みを各包括等で進めていく
家族を通じて本人の声を聞く	家族や支援者を通して本人の声を聞く
⑥関連事業の実施	
認知症カフェ開催	
認知症本人と家族の一体的支援プログラム実施	
オレンジドア開催	
本人ミーティング開催	
本人・家族の交流会開催	
ケアパス・連携シート・SOS 模擬訓練などマニュアル作成	
⑦条例の制定	
認知症に関する条例の制定	
⑧計画なし	
計画なし	
現在検討中	
コロナ終息を待って検討	

問8 その他、希望大使や本人発信支援に関する自由意見

自由記述一覧	
1	大使は当市在住で、講演の機会に市のPRもしていただき大変感謝しています。毎回快くいいきと講演をしていただいております。今後もご本人がいいきと生活できるよう、協働で活動いただきたい。
2	当市は、大使がいて下さるので、施策の内容の相談などをすることが出来ています。これからも本人の声をきくこと大切に、大使だけでなく本人発信していける方が増えるように支援を考えて行きたい。
3	希望大使に当市に来ていただいた事から、本人ミーティングやチームオレンジの活動が進展したと感じ感謝している。
4	希望大使となられる前に、本市の一般市民向け講座や、支援者向けの研修会で講演いただき、受講者からは、「本人の話を聞くことが大切」という感想が多く寄せられた。本市の協力者にも活動いただきながら、認知症施策に取り組んでいきたい。
5	認知症の方に対しての偏見や差別意識を持たずに関わる町づくりにご協力いただければと思います。いつもありがとうございます。

自由記述一覧	
6	次回希望大使候補者がいるため、認知症の対する理解を深め、認知症の方に優しい地域づくりを行っていく上でも、非常に意味があると思っています。
7	「認知症でも地域で安心して生活できる事」を目標に認知症施策を進めて来た。近年は本人からの本人ミーティングの開催希望の例もある。継続して本人の具体的な活動の発信をお願いしたい。
8	認知症について講義形式で丁寧に説明することはもちろん大切だが、認知症のご本人が発する言葉は、市民により深く届くと感じている。これからも、ご本人の言葉を直接市民に伝えていくことで、市民が認知症について理解を深め、「自分事」として感じてもらえるようにしたいと考えており、大使に御協力いただきたい
9	「希望大使」の存在自体が、認知症になってからも希望が持てるモデルとなる。アルツハイマー一月間に広く周知できると良い。例えば、テレビコマーシャルや電車の中刷り広告など興味・関心のない人にも届く方法で、都・国レベルで実施できると良い。
10	今後、閉じこもりがちな認知症の方を通りの場に誘う支援に向けて、希望大使の方に御協力いただきたい
11	認知症当事者の意向が第一と考えるので、事業の紹介はするが焦らずに当事者の意思決定を尊重したい。
12	認知症が一般に広く理解されると共に、“本人が”認知症であると自覚できるイメージ作り、意識改革が必要。「歳だから」等ではなく、どの年代でも起こりうることであることや、程度もさまざまであることを周知の上、取り組まないと意識改革を図ることができない。
13	まだまだ偏見が強く、認知症であることを本人が認識しそれをオープンできる環境にはなっていないと感じることが多く、本人発信の支援に難しさを感じる。県の事業も参考にしながら、認知症地域支援推進員を中心に取り組んでいきたい。
14	大使の活用について、具体的なノウハウをまとめたマニュアルがあると役立つのではないかと考える。
15	希望宣言や、認知症ヘルプカードの普及啓発をしていきたいと考えているが、それらの活用にあたって希望大使等の思いやメッセージがあると普及しやすいのではないかと考える。
16	本人発信できる人に早くから関り、継続して支えていく事が重要と考える。
17	認知症は進行するため、希望大使に任期を付け、継続するかの判断を行う機会を設けるのが必要ではないか。
18	希望大使のことを存じ上げず申し訳ありませんでした。
19	地域の方で本人発信していただける方を探しているがなかなか見つからない。
20	年齢的に若い方でないと、なかなか人前で自分の意見を発言していくことが難しいように感じます。これまでに、本人発信が可能な認知症の方を把握できておらず、出会うことも難しい状況と感じています。
21	現在活動されている希望大使の方は本市より遠く、旅費やご本人の負担等を考慮すると依頼しがたく、オンライン等を活用した発信等を多く企画していただけると嬉しいです。
22	希望大使と本人発信支援の明確な違いが曖昧である。
23	「本人発信」と捉える線引きが分かりにくい。 認知症の診断を受けて自他ともに認知症であると認識している方もいると思いますが、地域には、認知症の自覚はない方・乏しい方、診断までは受けてない方など、認知症があっても、微妙でも、「本人」として自覚することなく、またその必要もなく、社会のなかで暮らしている方も多くいらっしゃるの、何をもって「本人発信」とするのか分かりにくいと感じています。

(3) 希望大使本人調査

①実施概要（再掲）

実施方法:

- ①ヒアリング調査(動画収録等):各地の取組み等取材に合わせて、希望大使(と活動をともにする人)にヒアリングを実施
- ②活動等調査(事例収集等):各希望大使のメッセージ、日々の暮らしの様子、活動状況等を写真と共に提供依頼

実施人数

- ①ヒアリング調査:8都府県 13名、市任命大使1名、国大使5名
- ②活動等調査:14都府県 38名(調査実施時14都府県 52名中)

調査内容:

- ①任命までの経緯・活動、日々の暮らしや活動、これらを通じて考えること 等
- ②次に続く人へのメッセージ、大使になったきっかけ、日々の暮らしや活動 等

実施日:

①

インタビュー実施都府県等	人数	実施日
神奈川県	3	9/23
岐阜県	2	9/30
兵庫県	1	10/13
香川県	2	11/6
高知県	1	11/7
京都府(委嘱式取材)	-	12/7
東京都	2	2/9 2/22
京都府	1	3/8
大分県	1	3/12
* 鳥取市任命	1	8/24
* 厚生労働省任命	5	2/25

②1/27~3月。内容確認等で、随時延長した。

②実施内容

<ヒアリング調査（動画収録等）>

各地の取組み等を取材し、希望大使（と活動をともにする人）にヒアリングを実施した。
一部地域で、動画収録を行い、映像は日本認知症本人ワーキンググループのホームページの「希望大使 活動推進サイト(常設 WEB コンテンツ)」でご覧になれます。

No.1 神奈川県

・日時:2022年9月23日(祝)

・場所:鶴沼公民館 ホール

望月さんがピアサポーターとして、マンドリン演奏やワインインストラクターの活動をする、藤沢市の福祉施設・亀吉(NPO 法人シニアセラピー研究所運営)では、定期的に音楽イベントを開催し、望月さんが活躍しています。

2年ぶりの再開にあたり、地元の音楽グループに声をかけ、初めてのコラボレーション企画となり、同じく幅広く音楽活動を行う、松浦さん、柳田さんも加わりました。



●望月さん(もっちゃん)

ウェルカム演奏で、小さい秋みつけた、など秋の曲を演奏。
演奏後の子どもインタビューで、好きなキャラクターをきかれ、「もっちゃん」とこたえて、会場が盛り上がった。



●松浦さん（シンガーソングライターとして活動）

「認知症はきれいごとでない。大変なものではある。
自分なりにのりこえていく、そんな姿を見せられたらいい。」



●柳田さん（演奏活動のほか、音楽療法士としても活動）

自分の演奏の後、他団体の演奏者を誘って、セッションを披露。
「人生でどんなことがあっても諦めないことだと思う。これからも人生の主役、可能性は無限大だね。」

No.2 岐阜県【動画収録あり】

・日時:2022年9月30日(金)

・場所:OKB ふれあい会館

令和4年度世界アルツハイマー月間啓発イベント「認知症講演会」(岐阜県主催)のトークセッション「岐阜県認知症希望大使として1年」の後、高見さん、林田さんにお話いただきました。



●高見さん

ずっと続けている登山のことや「認知症の先輩から教えてもらいたい」と語る。

いつものように、締め挨拶は高見さん。



●林田さん

海が好きだったこと、何度も行った海を訪れたこと、認知症になって思うことを伝える。

No.3 兵庫県【動画収録】

・日時:2022年10月13日(木)

・場所:三田市総合保健福祉センター

古屋さんと家族、日頃の仲間、介護関係者が知り合う場、話し合う場をもつために集った「希望を叶える活動に向けたカンファレンス」で古屋さんや、古屋さんを支える方たちにお話いただきました。



●「待っているのではなく、自ら伝えたい」(古屋さん)

No.4 香川県【動画収録】

・日時:2022年11月6日(日)

・場所:香川県社会福祉総合センター

「認知症本人講演会 認知症とともに自分らしく歩もう」(香川県)主催の後、志度谷さん、渡邊さんに、ともに活動を支える人たちとともにお話を伺いました。



●「人生の経験を活かして、ピアサポート活動」(渡邊さん)



●地域の居場所をつくってきた仲間たちと(志度谷さん)

No.5 高知県【動画収録】

・日時:2022年11月7日(月)

・場所:高知県庁

山中さんから、異変に気付いた時のこと、本人と出会って変わったことや先輩たちへの感謝、デイサービスを自分で開所したこと等を、お互いを頼りにしているという県担当者とともに、お話を伺いました。



●お互いを頼りにしている県担当者と一緒に(山中さん)

No.6 京都府【動画収録】

・日時:2022年12月7日(水)

・場所:京都府庁／京都府認知症応援大使 委嘱式



No.7 東京都【動画収録】

①・日時:2023年2月9日(木)

・場所:田柄地域集会所

月1回参加する地元の本人ミーティングに参加する長田さんや、活動を支えるボランティアの方たち、地域包括支援センターの方にお話を伺いました。



●一緒に話したい、と本人ミーティングに集まる人たちとともに(長田さん)

②・日時:2023年2月22日(水)

・場所:くらしの保健室たま

居心地のいい、地域の集まり場で、能任さんや、ここに集まるご近所さんたち(活動を支えてくれる人やその友人でボランティアで参加する人等)にお話を伺いました。



●「(大使になっても)特に変わらない。まわりに恵まれていることに感謝」(能任さん)

No.8 京都府【動画収録】

・日時:2023年3月8日(水)

・場所:岩倉地域包括支援センター

地域包括支援センターで開催する、ものづくりワークショップ&カフェで、得意のコーヒーをいれてみなさんをもてなす鈴木さんや、娘さん、活動を支える地域包括の職員にお話を伺いました。



●「これまで経験したことのない日々だけど、家族の支援で安心して取り組んでいます」(鈴木さん)

No.9 大分県【動画収録】

・日時:2023年3月12日(日)

・場所:なでしこガーデンデイサービス

大分県ピアサポーター研修での本人ミーティングや、ふだんピアサポーター活動を行うデイサービスでお話を伺いました。



●「認知症になったからこそこの今。人生を謳歌している」(戸上さん)

* 鳥取市任命の希望大使

・日時:2022年8月24日(水)

・場所:鳥取市医療看護専門学校

希望大使が講師をする認知症サポーター養成講座にて、大使とともにこれを企画した方からお話を伺いました。

* 厚生労働省任命の5人の希望大使からのエール【動画収録】

・日時:2023年2月25日(日)

オンライン(現地収録あり)

左から

春原さん、丹野さん、藤田さん
渡邊さん、柿下さん



<活動等調査（事例収集等）>

次に続く人へのメッセージ、大使になったきっかけ、日々の暮らしや活動を14都府県38名の希望大使から提供いただきました。都府県別にスライドにしたものを都府県別にまとめ、希望大使活動推進サイトのコンテンツとしました。

<p>とうきょう 認知症希望大使 の と ともこ 能任 智子さん</p> 		<p>次に続く人へのメッセージ</p> <p>今まで通り、普通に暮らして、元気になっています。ただそれだけです。それが、私以外の認知症の方や家族の役に立てればよいと思っているだけです。</p> 
<p>日々、普通に暮らしているだけ…</p>		<p>大使としての活動</p>
<p>たまには手料理？</p>  <p>家では作りたくないと思っているけど、たまにはラーメンを作って夫と食べることも…</p>	<p>行くのが楽しみ！ 何でも相談できる場所 大事な居場所</p>  <p>くらしの保健室たま</p>	<p>【きっかけ】 いつもアシストしてくれている方に勧められ、「特別なことは何もしていないし、ふつうに暮らしているだけだよ！」と言ったが、「それでいい！」と言われて「私で役に立つなら」と受けた。</p> <p>東京都の希望大使座談会にて(オンライン配信)</p> 
<p>毎週日曜日は 団地の「女子会」に参加</p>  <p>お昼はみんなで作って、おしゃべり、ゲームで楽しむ</p>	<p>月1回は団地で「カフェ」</p>  <p>自分のことをわかってきている人たちと、歌や運動を楽しみ、時々勉強も…</p>	<p>地域のイベントにも協力</p>  <p>「認知症になっても私は私」と、今の思いを伝える いつも活動をアシストしてくれるくらしの保健室の間瀬さん</p>

(4) 県担当者意見交換会

①実施概要(再掲)

実施方法:座談会形式

実施日:令和5年3月12日(日) 14:00~15:10

場所:なでしこガーデンデイサービス/大分県大分市

参加者:

(県職員)

大分県	福祉保健部高齢者福祉課地域包括ケア推進班	安部 志織氏
兵庫県	保健医療部健康増進課 認知症対策班長	<small>こうむら</small> 上村 佐和子氏
兵庫県	保健医療部健康増進課 認知症対策班	前川 祐一郎氏
長野県	健康福祉部介護支援課 参事兼課長	油井 法典氏
長野県	健康福祉部介護支援課 主事	柳澤 佑輔氏

(司会)

本老健事業 検討委員	永田 久美子氏
------------	---------

(事務局)

本老健事業 検討委員	谷口 泰之氏
JDWG 老健事業研究班	小森 由美子
JDWG 老健事業研究班	古賀 ゆり
JDWG 老健事業事務局	渡辺 紀子 (計10名)

実施内容:

既に地域版希望大使を任命している大分県及び兵庫県の担当職員及び任命に向けて準備を進めている長野県担当職員の意見交換会を開催し、県職員として当該事業に取り組むための基本姿勢、留意すべき事項、大使任命プロセスにおける疑問や課題意識等について、率直な意見交換を行った。

なお、大使の活動現場である、大分県認知症ピアサポーター研修(大分県主催で、同日午前で開催)ならびに、大分県の希望大使がピアサポーターとして活動する現場(なでしこガーデンデイサービス)を視察した後に本意見交換を行い、収録動画を「希望大使活動推進サイト(常設型)」のコンテンツの1つとした。



②意見交換における主な内容

【任命に際して大切にしてきたこと】

(司会)

- ・ 今日には既に任命している大分県と兵庫県の担当の方に、事業の目的や取組みの工夫などについてお聞きしながら、これから任命する立場の長野県の担当の方に、電話やメールではなかなか聞きづらいことを率直に質問していただき、情報共有を図っていただきたいと思う。

(大分県)

- ・ 昨年、認知症施策の担当となった。既に大使は任命されており、まさに今から活動を始めようとしているところだった。最初はどのように進めたらよいのかと悩みながら、大使本人にお話を伺うことからはじめた。大使は、「一番したいことは、やっぱり 落ち込んでいる本人さんを元気にしたい」とおっしゃり、大使の気持ちと大分県の取組みをどうやってマッチングさせたらよいかを考えた。
- ・ 本人(大使)のやる気に繋がることを一緒にやりたいという気持ちで、これまで進めてきた。無理やり大使をやってもらうのではなく、既に地域で活動されているような方に「一緒に普及啓発を進めていきませんか」と声をかけていくことで、良い形の希望大使任命に繋がっていくと考えている。

(兵庫県)

- ・ 兵庫県の場合は、大使となった方が全国の仲間と出会い、講演活動など県の政策にご協力頂けるようになった時期と、認知症施策推進大綱のタイミングがピッタリと重なった。県としては、本人発信をしてくださる方に大使をお願いしたいと考えており、本人も取組みに共鳴してくださった。
- ・ 大使を依頼するにあたっては、その方以外にも広く県内に働きかけたが、名前や顔を公表するハードルが高いようで、最初は 1 名の大使の活動からスタートすることになった。
- ・ 兵庫県は、若年性認知症支援センターなどに早くから取り組んでおり、そういったところで当事者の集いを続けてきた。こうした元々の活動があったからこそ、今に繋がっていると思う。
- ・ 出来れば、次の大使のことも考えたいところだが、そのことにエネルギーをかけすぎず、大使をやりたいという方が出てきたら一緒にやればよいという感覚で取り組んでいる。

(司会)

- ・ とても大事なポイントだと思う。次の大使を急がない理由について、もう一步踏み込んでお話いただきたい。

(兵庫県)

- ・ やはり、大使の席を埋めることが目的になってはいけないと思う。仮に、今後大使の席

が空いてしまっても、兵庫県では「若年性認知症とともに歩む兵庫の会」の活動も続くだろうし、市町で広がっている「本人ミーティング」や「チームオレンジ」などの活動もある。それらをしっかりと根付かせ、市町の人たちと一緒に(本人の社会参加の文化が醸成していく様子を)実感できるようにしていくことの方が大切だと思っている。そして、大使をやりたいという人が出てきた時にお願いできるよう、いろいろなところに繋がっていかれたら良いと思う。

(司会)

- ・ いきなり大使というものがあるのではなく、地域の中で本人が語ったり活動したりしていて、そのステップを踏んでいく先に、「だったら県の大使もやろうか」という流れになるというお話だ。市町村に根ざした発信とか、一緒に作っている活動の方がベースになる。

(兵庫県)

- ・ そうありたいと思っている。

【認知症施策の方向性を明確化するチャンスと捉える】

(司会)

- ・ 県の担当者も、これだけ多くの施策やメニューがあると何をしたらいいか分かりにくいと思う。そんな中で、この希望大使は“何のためにやるのか”とか、“その人と何を作っていくのか”っていうところを本人と一緒に丁寧に考えていくことで、県として進む方向性や施策全体の組み立て方を明確にするきっかけになると思う。
- ・ この事業は、都道府県としての認知症施策の最も大切な骨格部分を、希望大使と一緒に作ろうとしている取り組みでもあると思う。

(兵庫県)

- ・ そう思う。

【「大使」という言葉のイメージ】

(長野県)

- ・ “大使”という言葉には“上から降ってくる偉い人”というイメージがある。国から言われるままに、市町村に何のベースもない中で、県が勝手に任命することが適切かどうか、批判を浴びるのではないかという心配をしている。
- ・ 今日の研修(大分県認知症ピアサポーター養成研修)を聞いて、そのような趣旨ではないことを理解したが、市町村等に対しては、“県で大使を置く”というイメージを覆すような研修を行い、理解してもらうことが必要だと感じた。

(長野県)

- ・ 確かに事業ありきの頭になるのは良くないと思う。県の中にも、本人発信をやりたいと思う方はいると思うので、そうした方の支援が出来ればと思う。まだ何も取り組めていない状況だが、今日のような場で実際に大使を設置されている他県の皆さんの話を聞いた

ことは大変ありがたかった。

【大使の活動内容について】

(大分県)

- ・ 大分県ではピアサポーターから希望大使になられる方が多い。県としても、まずは地域での交流や本人ミーティング、ピアサポート活動等の本人同士のつながりを経験された方に大使をお願いしたいという思いがある。
- ・ ピアサポーターの活動は、地域での講演会・研修会、あるいは地域の集いで地域住民や当事者と交流しながら自分自身の診断後の思いや現在の生活の様子を話していただく。基本的に市町村からの要望に応じた活動を一緒に行っており、内容は様々である。
- ・ 一方、大使の方には普及啓発に協力いただいている部分が多い。氏名などを公表している点もピアサポーターとは異なる点だ。大分県では「希望大使通信」というものを作っていて、普段の活動の様子や自身の気持ちを発信していただいている。

(兵庫県)

- ・ 兵庫県では大使が1名ということもあり、あまり負担をかけないように配慮しているつもりだ。主に県が主催するイベント等に協力いただいているが、もともとご自身で講演活動をされていたこともあり、我々が知らないところでの活動もされている。そこはあまり細かく考えない。
- ・ また、県の方でPR用の動画を作成する際に協力いただいたり、初めての大使を委嘱したということ、記者発表や取材対応、テレビ出演、新聞記事等に繋がっていたりする。
- ・ さらに、審議会に置かれている認知症対策部会の構成員にもなっただき、認知症施策等の方向性について考えを深めて、取組を展開していく上でのパートナー的存在になっている。

(司会)

- ・ 県の姿勢として、「任命」とか「これやって」というのではなく、本人がやりたいことを一緒に考えたり応援したりしている感じが伝わってくる。県の担当者は本人の直接の支援者ではないけれど、施策を通じて本人を勇気づけることができる関係になれるのだということを感じた。

(事務局/御坊市職員)

- ・ 御坊市でも独自の大使を2名置いている。現在、独自の大使を置いているのは御坊市と鳥取市の2市だけで、以前にオンラインで交流会を実施したことがある。その時、御坊市の96歳大使の元気な姿を見た鳥取市の大使が、「ものすごく元気をもらった」と言っていた。そして、「もし自分が寝たきりになってもベッドから発信したい」と言っていたことが、ものすごく印象に残っている。
- ・ 認知症になっても悪いことばかりじゃなく、いろいろな人に出会えた、人生が豊かにな

ったと話をする方は結構いらっしゃる。

(兵庫県)

- ・ 認知症になったからこそ出会えた人がたくさんいると。

【大使の発信について】

(事務局)

- ・ 大使に限らず、いろいろな経験から強い思いを抱いて発信する本人が増えているが、聞いた人によっては誤解を与えかねないこと、例えば、特定の健康法を伝えたい等、自分の経験に特化した話を強く伝える方もいる。大使としてこうしたことを伝える方がいた場合、都道府県担当者としてどのように考えるか。大使の発信内容への対応に苦慮する担当者も実際におられた。そうした経験があれば共有いただきたい。

(兵庫県)

- ・ 当初は認知症と診断されていたが、診断名が後にかわった方の場合、生きづらさを持っておられるし、認知症の本人ではない方を排除するわけではないが、認知症の症状を体験していない人が認知症の当事者として、体験やつらさを語るのは、やはり、違うと思う。どう説明すればいいのか。違うというのは簡単だが、難しいなど今悶々としている。

(事務局)

- ・ 発信活動をする本人からは、本人も間違えることはあるし、違うと思うことについて互いに話しあうことが大事ではないかという声が出ている。聞く人によっては、本人が意図しないことが伝わることもあり、間違いと思われることが、事情を確認するとそうではないとわかることもあるので、解決策はなかなか難しい。本人発信が増えている中で、都道府県が大使を任命する理由を問わなければいけないと、本事業の委員会で指摘された委員がいたが、本人が単独で発信する場合と、誰か共に発信内容・伝え方を相談しながら発信する場合とでは、違いがあるのでないか。

(大分県)

- ・ 大分県では特定の健康法等について話される方はおらず、皆さん、当事者同士で元気になられた方々なので、交流できる場所を増やして欲しいという思いを伝える方が多い。話すことを止めることはできないので、県が任命するときに面接をさせていただき、本人の伝えたいメッセージをお伺いするとともに、県が伝えたいことや県の方向性等を理解してもらったうえで任命している。

(司会)

- ・ 今後は地元の大使のネットワークも大事にしつつ、都道府県を越えて全国で大使や関係者のネットワークを作り、こうした課題を話し合うとよいのではないか。自分の好きなことだけ言うのが大使ではなくて、これから共に生きるとか、どの地域でも暮らしやすくなるように、広がることを大事にしていく人が大使ではないかと思う。都道府県が大使の活動を規制するというのではなく、任命されてこれから活躍していくために、こういうことを

大切にしよう、こういうことには気を付けよう、等、本人同士ならではの話し合いをし、言い合える関係も広げていく必要があるのではと思う。大使だから、認知症だから、ではなく、人として守ることは守ろうということが、今、本人同士で発言が出ているので大事にしていけたらいいのではないかと思う。

【自治体の課題意識：「大使の認知症が進行したら…」】

(事務局)

- ・ 都道府県アンケートの結果から、担当者は大使の認知症の進行について課題意識を持っている様子が伺われる。この点、既に任命されている県ではどのように考えておられるのか。

(兵庫県)

- ・ 本人に決めて頂ければ良いことだと考えている。症状が進行して、仮に言葉での発信が難しくなったとしても、本人のやりたいという意思があるのなら続けていただきたいし、表立ったことは控えたいということであれば辞めていただいてよいと考えている。そこはあまり問題とは思っていない。
- ・ 兵庫県では要綱上も委嘱した日から 2年度末までとしていて、任期のタイミングで再度意向の確認をしている。また、途中の再任も退任も妨げないこととしている。

(大分県)

- ・ 大分県も同じである。任命に関するだけでなく、活動ごとに意思確認しており、本人がやりたくないと思うことはしなくてよい。
- ・ 自分がしたいことを選んで活動していただき、大使を辞めたい時には辞めていただいてもよいと考えている。

(司会)

- ・ 大事なのは普段の活動から必ず説明をして、毎回本人に考えてもらい、やるかどうかは本人が決めるということ。その積み上げがあって、その先で状態が変わった時にも、決めるのはあくまで本人ということだ。その流れを一貫していくことが大切。

【行政内部の理解浸透・説明の仕方について】

(長野県)

- ・ 我々が持つ大使のイメージは、どうしても「ふるさと大使」みたいなことを考えてしまうが、今日はだいぶイメージが変わった。

(大分県)

- ・ 確かに、県の中でも上司に説明すると、「何の大使？」「これは何のため？」「効果は？」などと聞かれることも多く、認知症当事者が発信することの意味を理解してもらうまでに労力が必要になる。

(事務局)

- ・ そんな状況の中で、動画や事例集などを活用していただくと理解しやすくなると思うが、皆さんが説明する際、少しで楽になるためにはどのような資料が欲しいと思うか。

(長野県)

- ・ 「どういう理由で大使を置くのか」という部分で作ってもらえると、説得力が増すと思う。
- ・ これから設置するところは、設置までの過程が一番気になると思う。
- ・ 認知症施策については「大使」だけでなく、初期集中支援チームとかチームオレンジなどもある。どうしても国に言われたからやっている感じが、自分たちが納得して市町村に説明出来ているかといえば、そこは自信を持って言えない部分だ。認知症施策全般について、我々自身がもう少し納得感を持ってやっていかなければならないという気がしている。

(大分県)

- ・ 周囲の理解が十分ではない中、内部の説明でさえ大変な部分がある。人によっては、「可哀想なことをさせるんじゃないか」とか「氏名まで公表してさせることなのか」という捉え方をされてしまうことも考えられる。
- ・ 実際、他の都道府県が任命する際には、「大使とはどんなものか」「どういう活動をしてもらうか」などを説明するところで様々な危惧する意見が出る場合が多いと思う。
- ・ 設置の過程や設置後の活動、事務的なところも含めた手引きであったり、説明しやすいツールがあるとハードルが下がると思う。

【事業費に関する課題について】

(長野県)

- ・ 行政ならではの悩みとして、財源の問題をどうしているかという情報を共有できるとよいと思う。

(大分県)

- ・ 大分県では、「大使」の独自予算は取っていないため、大使の方の普及啓発は「ご協力」の位置づけで、報酬は支払っていない。
- ・ 大使の活動のひとつにピアサポート活動があるが、その活動にはピアサポート活動事業費から報償費を支払っている。また、その時に支援者が同行してくださる場合は、支援者の方にも報償費を支払う。
- ・ ただし、今日のような研修会や交流会に自主的に参加したい場合で移動の手伝いをしてくださる支援者には支払うことができない。支援者の方は、「一緒に勉強したいから乗せていくよ」と協力してくださっている。また、なかなか支援者が集まらない悩みもある。

(兵庫県)

- ・ 車での移動を支援者に手伝っていただく場合、やはり保険の問題がついてくる。どう整理すべきかを考えているところだ。
- ・ 兵庫県では大使の活動にボランティア保険をかけている。

(大分県)

- ・ 移動の話はどこの県でも課題になっているようだった。大使の活動はどうしても県内の移動を伴うことが多く、ネックになる。

【担当者から見る大使の活動について】

(兵庫県)

- ・ 一方的な思いかもしれないが、大使と一緒に活動してきたことで、実は私が育ててもらったように感じている。「本人が希望を持って暮らす」ということについて、今思うと最初はちゃんとわかっていたいなかった。
- ・ 障害者の権利条約などもあるので、お題目的には理解しているつもりだった。だから、「本人が希望を持って暮らす」ということに特別感はなかったし、当たり前じゃないかとさえ思っていた。ただ、その理解に深みはなかったと思う。
- ・ 大使の方と活動を共にする中で、本人の認知症は少しずつ進行していて、それでも「爪痕を残したい」「人と交流したい」ということをおっしゃっていた。そうした経験を通して、「希望を持って生きる」ということがどういうことなのか、私の中で実感できるようになってきた。
- ・ 私はその実感を持って、市町の人たちと「こんな街づくりをしていきましょう」というメッセージ伝えようとしているのだと思えるようになった。大使には、ありがとうという気持ちを伝えたところだ。今は共感出来ていると思う。

(大分県)

- ・ 大分県はピアサポートと希望大使の活動を明確に分けていないので、本人達はピアサポーターと希望大使の違いを意識していないかもしれない。でも、振り返ると、大使として様々なところで活動していただく中で、専門職や地域の人と出会えば、大使から、「なんかすごくみんな色々やってるんだね」とか「いろんな気持ちが聞けたな」とか「もっとこうなっていくといいよね」とか言っただけなので、それもまたやりがいというか、活動がいろんな人との出会いのきっかけになっているように思う。そばで見ている、やはりその経験が次の活動につながっていると感じる。
- ・ 「いろんな人と会えて楽しい」と言ってくれるので、それが一番いいと思う。

(司会)

- ・ 同じ地域にいても、本人同士も、本人と地域も、本人と専門職も、すれ違っていてなかなか出会う機会がないと思う。まずは、大使になられた方が活動をする中で、いろいろな人に出会い、「一緒に考えよう」とか「一緒にこれからの生き方を考えていこう」とかみたいなことをやって、いろいろな人たちとの関係性を変えていくフロントランナーに位置付けるという考え方もあるかもしれない。やはり、「まずはやってみる」というところから少しずつ見えてくる感じがする。本当に大事な変わり目にきている。

3. 地域版希望大使交流会の開催

1) 実施概要

各地域の希望大使同士の交流促進、設置（任命）自治体間の情報共有とネットワークづくりを目的とした交流会を開催（試行）し、交流会前後のプロセスを含め、交流やネットワークのあり方・方法等を検討した。

交流会（オンライン）には、任命済都府県の大使・自治体職員等の関係者は zoom にて参加した。同時に YouTube ライブ配信を行い、事前に任命済 13 都県・任命予定 1 府の担当者から管内市町村へ周知してもらうとともに、未設置 33 道府県及び当該管内市町村関係者に周知することにより幅広く周知を呼びかけた。

地域版希望大使交流会は令和 3 年 9 月開催（オンライン。当法人の自主企画）に続く試みであった。当日の様子は、当法人ホームページ上に動画等を公開した。

2) 実施事項

(1) 作業部会（交流会事前打ち合わせ）

開催準備として、任命済都県担当者による作業部会（交流会事前打ち合わせ）では、前年度に実施した交流会（当法人の自主企画）を振り返りながら、参加する大使等の心身負担の軽減や発言しやすい環境づくりなどについて活発な意見交換を行い、改善点等を検討した。

日時：令和 4 年 9 月 8 日（木）11:00～12:00

開催方法：オンライン会議（zoom）

参加者：都県職員 15 名（任命済 11 都県）

本老健事業研究班・事務局 3 名

【主な意見】

① 本人同士の交流への配慮について

- ・ 昨年は自治体担当者からの紹介等に多くの時間が割かれていて、大使に発言いただく時間が少なかった。
- ・ 大使の方からは、行政の方の説明が長く、もっと本人同士の交流をしたかったとの声があがっていた。行政の説明を減らせるとよいと思う。
- ・ 都県からの紹介は手短にするようにし、大使一人ひとりが声を出せるといい。
- ・ できるだけ本人から話してもらえるのがいい。
- ・ 大使が他の県大使と交流する機会がなかなかないので、ぜひ参加させていただきたい。

② 本人の参加のしやすさについて

- ・ 大使のように動けない方でも、本人ミーティングに関心をもつ人がいる。去年の楽しい様子を見て、こんな場があるのだと関心を持ってくれた人に、なんらかのやり方で体験して

もらい、一歩前へ進んでもらえたらいいと考えている。

→事務局:希望大使の仲間として、大使ではない方も参加してもらって差し支えないのではないかと考える。

- ・ オンラインが苦手な方もいるが、「知っている方々に見てもらうから硬くならなくても大丈夫ですよ」という体で打診したい。
- ・ 去年、スライドを用意したが、今年も必要か？用意せずに、気楽に参加してもらえたらと思う。
→事務局:気楽に参加していただきたい。もし何かスライドを用意した方がよいということであれば、去年のように行政で用意していただき、本人はその場で思い付いたことを話していただきたいと考えている。
- ・ 昨年度に参加した方から、「心配りで疲れちゃった」との声があり、自己紹介でしか話ができなかったとのこと。たとえば、他の地域の大使の活動を司会の方に引き出してもらい、「こんなことやってみたい」と本人からの声が出るようになれば、今後の活動繋げていけるように思う。
- ・ 今回は、大使の皆さんの交流の様子を、私たち(行政側)が聞かせてもらうというスタンスで参加させてもらえたらいいのではないかと。
→事務局:司会の丹野さんと相談した上で、「こういうことについて皆どうやっているの」等、テーマを決めて大使の発言を促す方法を考えたい。

③ 交流会の進め方について

- ・ キャッチボールしながら進めるのもよいと思う。交流の方法も、できればブレイクアウトルームに移って話しやすくするなど。それらをオンラインにアップしたら、これから任命される大使の方たちもイメージが付きやすいのではないかと。
- ・ アンケートにあった「いい面だけでない課題」や「困りごと」などもあるはずだ。そういうところをどう見せていくかも入れて頂けたらいいと思う。
- ・ 大使の方から、繋がりたい、仲間を増やしたい、という声があり、今回がそうした機会になればいいと思う。一同に会する場のほか、やりとりできる規模感での場も必要と思った。
→事務局:ブレイクアウトルームをライブ配信することは出来ないが、それぞれを録画し、コンテンツ化することはできる。

④ YouTube 配信・オンラインコンテンツ化等について

- ・ YouTube 配信やコンテンツ作成に際して、匿名・仮名はよいけれど、顔を出したくないということで顔をぼやかすと希望大使っぽくなくなると思う。出来れば皆さん、明るく楽し気な表情で参加していただくといいのではないかと。

(2) 開催準備

交流会は zoom によるオンライン開催としたため、希望大使及びサポートされる方に向けて、操作手順等の説明資料を配布した。

地域版希望大使交流会 参加のみなさまへ

※適宜、希望大使・サポートされる方へ共有をお願いします。
(当日、開始前にもアナウンス、サポートさせていただきます)

① Zoomで表示される「自分の名前」を、次のように設定してください。

希望大使	「1. 大使の名前(都県名)」 ※複数の方が1台で参加の場合は、名前を並べてください(仮名・匿名可)
各都県の担当者	「2. 都県名」 ※複数の方で参加の場合は、都府県名の後に番号をつけてください

＜設定方法＞ ※下記画面は、パソコンのものですが、スマホ・タブレットも操作方法は同じです。

1. 「ミーティングに参加」時に設定する場合

zoomアプリを起動して参加する場合は、こちらです。

- ①Zoomアプリを起動
- ②「ミーティングに参加」をクリック



- ③「ミーティングに参加」画面で、ミーティングID入力欄の下に表示されている自分の名前を変更した後で、「参加」をクリック



2. 入室した後(参加した後)に設定する場合

招待メール内のURLリンクからミーティングに参加する場合は、こちらです。

- ①招待リンクをクリックして入室
- ②画面下部のメニューから「参加者」をクリック

- ③自分の名前にカーソルを合わせて「詳細」をクリック

- ④「名前の変更」をクリックして名前を入力し、「OK」をクリック



② ビデオと音声の設定は、原則次のようにお願いします。

希望大使	開始時は、ビデオ:オン、音声ミュートをお願いします(発言の際は、音声オン)
各都県の担当者	開始時は、ビデオ:オン、音声ミュートをお願いします(「2. 交流タイム」は、ビデオ停止・音声ミュート)

地域版希望大使交流会 プログラム(進行)と、当日のzoom画面、Youtube配信画面について

* 画面は状況により変更となる場合があります

時間	内容	当日のZoom画面 (各自で設定を変えることができますが、スポットライトを使用している時は、全ての方に同じ画面が表示されます)	Youtube配信画面
13:30~	会議(zoom)オープン	ギャラリービュー: 参加のみなさんが表示されます	(配信まち)
13:50~	前説: 全体の流れを案内(JDWG事務局) タイトル出し/Yourubeへの送信開始(視聴開始)		zoom画面と同じ *ビデオ停止の方は表示されません
14:00 ~14:05	交流会開会 オープニング: 丹野さん(進行役)	スポットライト(丹野さん): 丹野さんが、大きく表示されます *各自のzoom画面設定に関わらず、全ての方に同じ画面が表示されます	スポットライトされた方(丹野さん)が表示されます
14:05 ~15:00	【全体で】 1. 各都県の大使紹介: 各都府県の担当者と大使のみなさん ①都県担当者から名称や人数、大使のお名前等を集会 ②各都県の大使の紹介(自己紹介)	スピーカービュー: 話をする方が、大きく表示されます *画面共有の時は画面の上に、話をする方が表示されます	話をしている方が表示されます
15:00 ~15:30	【グループで】 2. 交流タイム ~互いの思いやアクションを話し合ってみよう (zoomブレイクアウトルーム利用)	【各部屋で】 ギャラリービュー: 各部屋に参加のみなさんが表示されます	メインルーム(グループの1つ)が表示されます *ビデオ停止の方は表示されません
15:30 ~16:00 (予定)	【全体で】 3. これからの大使同士の交流やネットワークづくりに向けて (フリーで発言)	スポットライト(丹野さんと発言者): 丹野さんと、発言者が、大きく表示されます *スピーカービューも一部併用 *各自のzoom画面設定に関わらず、全ての方に同じ画面が表示されます	スポットライトされた方(丹野さんと発言者)が表示されます

(3) 地域版希望大使交流会の開催

日時：令和4年10月3日（木）14:00～16:00

開催方法：オンライン会議（zoom） *Youtube ライブ配信を実施

参加者：希望大使 30名（任命済 13 都県、任命予定 1 府、国大使含む）

都府県職員 18名（任命済 13 都県、任命予定 1 府）

本老健事業研究班・事務局:5名

WEB コンテンツ化し、当法人ホームページに掲載した。

【プログラム】

時間	内容	留意点
13:30	会議(Zoom)オープン/接続・機器の調整等	
13:50～	前説:交流会全体の流れを案内(JDWG 事務局) タイトル出し/Youtube への送信開始(視聴開始)	
14:00	交流会開会 オープニング:丹野智文さん	
14:05 ～15:00	【全体で】 1. 各都県の大使紹介:各都県の担当者と大使のみなさん 進行役:丹野智文さん 本研究事業検討委員/認知症本人大使(希望大使) ① 都県担当から名称や人数、大使のお名前等を紹介 ②各都県の大使の紹介(自己紹介)	①スライド1枚で短く (原則として1都県1分程度) ②大使自己紹介は一人1分程度 (大使の参加人数により、時間調整あり)
15:00 ～15:30	【グループで】 2. 交流タイム(zoom ブレイクアウトルーム利用) ～互いの思いやアクションを話し合ってみよう *参加予定者をみながら、各部屋の進行役を設定 *全体進行役の丹野さんは、各部屋を訪問可能とする *都県担当者の皆さんは、原則、地域の大使が参加するグループに参加(方法は別途案内します)	・1グループ 5,6 人程度、事前にグループ分け ・大使以外はビデオ停止・音声ミュートとする ・各部屋にレコーディング担当を配置する
15:30 ～16:00 (予定)	【全体で】 3. これからの大使同士の交流やネットワークづくりに向けて	
	交流会閉会	

<地域版希望大使交流会に参加したみなさん>



◆交流タイムでは5つのグループに分かれ、参加者の中で予め進行役を依頼し、交流を行った。



例 グループ2



例 グループ4

4. 地域版希望大使の任命と活躍の手引き／地域での活動事例集の作成

「都道府県調査」「希望大使設置都府県管内市町村等調査」及び「地域版希望大使交流会」「希望大使本人調査」等で収集した情報を整理し、手引き／事例集を作成した。（A4判 48頁）



<主な内容>

希望大使設置都府県事例集	<ul style="list-style-type: none"> ・希望大使からの次に続く人へのメッセージ、大使になったきっかけ ・希望大使の日々の暮らし、活動紹介 ・都府県担当者からの任命してよかった点・課題 等
地域版希望大使の任命と活躍に向けたポイント ～本人視点にたって、プロセスをとも歩み、ともにつくろう～	<ul style="list-style-type: none"> ・設置目的・要件の確認と共有 ・大使の人物像・役割・要件の明確化 ・任命のあり方 ・具体的な役割の設定 ・委嘱後の活動で大切にしたいこと ・今後に向けて 等
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・地域版希望大使の設置に関する厚生労働省通知 ・認知症施策推進大綱(抜粋)

5. 希望大使 活動推進サイト（常設型）の設置

希望大使活動の推進等を目的に、希望大使任命・活動状況実態調査の経過、結果及び大使本人、事業担当者等へのヒアリング取材を踏まえて、当法人ホームページ上に、手引き・事例集と対照性のあるWEBコンテンツを作成し、常時活用可能なサイトとして提供した。

（当法人ホームページからアクセス）

◆希望大使、大使ともに活動する人たち、自治体担当者から（動画）

No.1 能任さん・活動を支えるみなさん／東京都

No.2 長田さん／東京都

No.3 長田さんとともに活動するみなさん／東京都

No.4 高見さん・林田さん／岐阜県

No.5 鈴木さん・活動を支えるみなさん／京都府

No.6 京都府認知症応援大使 任命式

No.7 古屋さん・活動を支えるみなさん／兵庫県

No.8 志度谷さん・活動を支えるみなさん／香川県

No.9 渡辺さん・活動を支えるみなさん／香川県

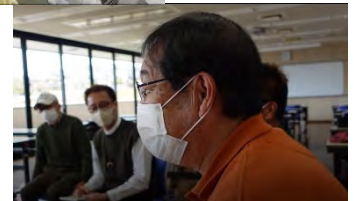
No.10 山中さん／高知県

No.11 山中さんと県担当者／高知県

No.12 戸上さん／大分県

No.13 認知症希望大使（藤田さん・渡辺さん・春原さん・柿下さん・丹野さん）からのエール

No.14 兵庫県・大分県・長野県 担当者意見交換会



◆各地の希望大使から （メッセージ、日々の暮らし・活動紹介）

<p>とうきょう 認知症希望大使 のとも 能任 智子さん</p>	<p>次に続く人へのメッセージ 今まで通り、普通に暮らして、元気になっています。ただそれだけです。それが、私以外の認知症の方や家族の役に立てればよいと思っています。</p>
<p>日々、普通に暮らしているだけ…</p> <p>たまには手料理？ 行くのが楽しみ！ 何でも相談できる場所 大事な居場所</p> <p>家では作りたくないと思っ ているけど、たまにはラーメン を作って夫と食べることも…</p> <p>毎週日曜日は 団地の「女子会」に参加</p> <p>お昼はみんなで作って、おし ゃべり、ゲームで楽しむ</p>	<p>大使としての活動</p> <p>【きっかけ】 いつもアシストしてくれている方に勧められ、「特別なことは 何もしていないし、ふつうに暮らしているだけだよ」と思った が、「それでいい！」と奮わられて私で役に立つならと受け入れた。</p> <p>東京都の希望大使交流会にて（オンライン開催）</p> <p>地域のイベントにも協力</p> <p>自分のことをわかっていて いる人たちと、歌や運動を 楽しみ、時々勉強も…</p> <p>「認知症になっても私は 私」と、今の思いを伝える</p> <p>いつも活動のアシストしてくれ るしの保健室の関根さん</p>

◆地域版希望大使交流会 （動画）



第3章 地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援（委員会提案）

地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援を、各都道府県が円滑かつ適切に展開していくために特に重要と考えられる下記の事項について、調査結果及び委員会での検討結果をもとに提案する。

1. 地域版希望大使を都道府県として設置する目的の明確化・浸透

1) 地域版希望大使を設置する目的について

地域版希望大使を設置することの目的は、認知症の人本人が自らの言葉で語り、認知症になっても希望をもって前を向いて暮らすことができている姿等を積極的に発信していくことを通じて、

- ① 都道府県内で暮らすすべての人々に、「認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる」ことの理解の普及啓発をはかること
 - ② 共生社会の実現を本人とともに進めていく姿勢やあり方を都道府県が示していくこと
- 以上、2点が重要と考えられる。

2) 目的の明確化と浸透の必要性

- ① 大使設置の目的を、都道府県として明確にし、広く浸透を図ることが、任命やその後の活動支援を一貫して着実に進めていくために必要である。

◇ 目的が不明確なまま大使を設置してしまうと、大使の任命やその後の活動で本人や関係者に混乱や不安をもたらし、取組が円滑・適切に進まない。

- ② 大使設置の目的を都道府県管内全体に浸透をはかることで、大使の存在や活動の意味の理解が高まり、大使の活動による成果が高まることが期待される。また、大使が活躍しやすい環境整備が進むことが期待される。

◇ 大使設置の目的が何か、浸透をはからないまま進めると、大使の存在や意味が誤解されたり、矮小化した役割(例:単発的な講演の講師)として大使が使われてしまい、本来の目的が達成されないだけでなく、大使が消耗して、活動が長続きしない。

2. 地域版希望大使の人物像及び役割、要件の明確化

1) どんな人か：人物像の明確化

認知症になってからも、地域の中で自分らしい暮らしを続けながら、前を向いて暮らしている人。

- 「特別な人」ではなく、一人ひとり、自分なりに暮らしている「ふつうの人」
できなくなったことは自分なりのさまざまな工夫で補いながら、できることを活かして、今まで通り、日々普通に暮らしている人。
- あきらめずに挑戦する人
自分の生きがいになること(例:趣味等)や自分なりの生活を、あきらめずにやっている人。

● 年齢や状態像に限定されない

話せなくても、できなくなったことは自分なりのさまざまな工夫で補いながら、できることを活かして、今まで通り、日々普通に暮らしている人。

2) 何をする人か：役割

① 自分なりの言葉や姿を通じて、地域の中で自分らしく前向きに暮らしている実際や思いを伝えていく。

② そのことを通じて、他の認知症の人や地域社会の人たちが、認知症について希望のある見方を持ち、目の前にいる不安を持った人がひとりでも前を向いてともに暮らしていける人を広げていくのが役割。

● 伝え方(発信の仕方)は、人それぞれでいい

・講演をすることが役割ではない。

・最初から発信できる人はいないし、話せる人もいない。話すほど上手になるが、話せる機会が与えられていないことが課題。

● 言葉が出る-出ないに関わらない

・本人が、本当はたくさん発信しているので、その声を聞いた人が他の人に共有していくことも本人からの発信。

3) 大使として活躍していくために必要なこと

① 大使になるかどうかは、やらされではなく、本人の意思で納得して、本人が決めること

◇ 周囲が熱心に大使になることを勧めて、本人自身が大使の目的等がよくわからないまま任命されている場合もみられ、活動が受け身的で本来の大使の活動にはなっていないか、名前だけのままで活動がなされない場合もみられている。

◇ 本人の周囲の人(家族や支援者等)が受任や更新に消極的な場合、本人自身の意思を確認し、本人の意思が反映されるように協議や調整が必要。

◇ 本人は大使として活動したい/活動を続けたい意向があるが、周囲の考え(負担になると悪い、認知症が進行しているから等)や、周囲の負担(活動の連絡調整やアテンドが大変など)で受任や更新に至らない場合もみられている。

② 本人が大使活動を続けていくための伴走者・チーム

本人がふだんからつきあい、希望大使として活動していることを応援・伴走していく人(たち)が必要。

● 応援・伴走者は専門性や資格の有無ではなく、本人が「この人と一緒に活動したい」と思える人と進めていくことが重要。

● 一人ではなく、何人かでチームを組んでいることが望まれる

◇ 大使の活動では、本人や関係者との連絡調整、活動内容についての本人との話し合いや事前準備、活動当日のアテンド、活動後のフォロー等、見えにくい役割・機能が多い。伴走が一人だけだと、負担がかかる。

◇ 本人が活動したいのに、伴走してくれる人の都合がつかないため、本人が活動できなかった場合がみられている。

3. 「地域版希望大使の任命(委嘱)」のあり方

1) 大使を「探す」のではなく、プロセスを大切にする

希望大使の任命(委嘱)が目的ではない。任命後の展開を見据えて取り組むことが必要。

2) 市町村での本人が話せる環境づくりの促進が基盤

- ① 大使を「探す」という視点ではなく、管内市町村において普段から本人が話せる環境をつくることを促進していく。
- ② 管内市町村と連携しながら、さまざまな本人の活動情報の収集や再配信を通して環境づくりの促進をサポートしていく。(発信する本人が増えていく中で、希望大使の任命につながる。)

3) 更新は、本人が自己決定すること

再掲。上記2. 3)①参照。

- ① 本人、家族、推薦者、支援者等と都道府県担当者が直接会い、主旨や活動についてわかりやすく説明し、本人自身の意向を確認する。
- ② 本人から現在の暮らしや今後についての希望等をうかがい、大使としての活動の可能性やその人に応じた活動のあり方などを検討していく基礎にする。

4) 大使となることや活動していく上での適正の検討

実際に取り組みながら、その人の大使としての意識や活動の可能性が高まっていく場合が多いので、任命や活動前に適正を判断することは、慎重に行う必要があるが、以下のような場合は十分な検討や対応が必要。

- ◇ 本人の中には負の発信をする方もいる。負の発信に他の本人も引っ張られ、自分のことを否定しはじめたり、先のことが不安になったりする場合もみられる。負の発信のみだと、地域社会の人々の前向きな理解にはつながらない。(負の発信をされる本人は、大使の活動の前段階として仲間との出会いや前向きになれるような地域での何らかの活動が必要)
- ◇ 病気を受け入れられない方も希望につながりにくい。
- ◇ 個人的な関心や特定のサービスやモノをPRする発言が多い場合、大使の立場としては、偏った発信や誤解を広げてしまう恐れがある。

大使には負の体験をしつつも、それを乗り越えてきている体験をしている人、暮らしやすい地域をつくるために前向きな発信をしていこうという人が適している。

4. 「地域版希望大使」の具体的な役割の設定について

1) 役割は都道府県ごとに、大使それぞれと話しあいながら設定していく

- ① 希望大使の役割は「希望ある暮らしを続けている姿を発信すること」で、その発信方法は行政と本人とが一緒に考えていくことが大事。
- ② 都道府県が画一的に決めて、それにあわせて「大使を利用する」のではなく、大使となる本人それぞれの状況や意向に応じて、話しあいながらその人にあった具体的な役割を一緒に検討していくことが必要。

【主な活動事例】

- 都道府県が実施する認知症の普及啓発活動への参加・協力
- 認知症サポーター講座の講師であるキャラバン・メイトの活動または活動への応援
- ピアサポート活動
- 市町村や関係機関からの依頼による活動
- 都道府県の施策検討等の委員会等での委員、会議等への参加など

5. 今後に向けて

今後に向けて、次のような展開が望まれる。

1) 本人大使同士のさらなる交流を

本人同士で話す場は大きな力を持つことが確認された。本人との出会いにより、「これから認知症になる人のために」と大きく変わった方もあり、本人大使同士のさらなる交流が期待される。

2) 自治体職員同士のさらなる交流を

自治体職員は、希望大使やその関係者との関係性を築いても、異動があり、情報を求める声が多い。担当部署内だけでなく、管内市区町村、他都道府県との連携により、成果や課題を共有することが必要。

交流については、既に自治体内または近隣自治体間での自主的な交流がうまれており、こうしたボトムアップ型とともに、全国エリア、地方厚生局エリアなど、さまざまなレベルでの交流の促進が期待される。

參考資料

参考資料

調査票① 希望大使設置都府県調査票

令和4年度 老人保健健康増進等事業「地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援に関する調査研究」

地域版認知症希望大使 任命都府県へのヒアリングシート

地域版認知症希望大使の任命に関し、以下お伺いします。9月12日（月）を目途にお答え願えれば幸いです。

*記述により、表中の行数や頁数が増えても差支えありません。

*既にホームページ等で公表された情報は、あらかじめ入力しております。ご確認いただき、必要に応じて修正・追記をお願いいたします。

〇〇 県

1. 認知症希望大使事業概要について

①(希望大使の)名称	()大使
②事業創設年月日	※個別の任命・委嘱年月日は、「個々の大使の方々にに関する情報」にご記入ください。
③現在の大使の人数	名
④大使の定員 (規定等がある場合)	
⑤任命要件／選任方法	※要項や要綱で示されている(公開等されている)場合は、その旨お知らせください。
⑥任期／再任の要件等	
⑦公開情報参照先 (ホームページ等)	

2. 事業プロセスについて

①事業プロセス(起案～候補者把握～候補への声かけ～調整～承諾～任命・委嘱)の具体的な業務の流れ・手順	※個別の任命・委嘱については、「個々の大使の方々にに関する情報」にご記入ください。
②任命・委嘱に要した期間・日数等	

③任命・委嘱に際しての主な助言者・協力者(相談先・協働先・立場等)	(例:市区町村、地域の関係者、団体や個人等)
④任命・委嘱に際し、課題となったこと、及びその解決アクション	

3. 希望大使の活動について

①活動内容(機会や場)	
②これまでの活動した管内市区町村名や機会	
③キャラバン・メイトとの協働 (活動実例の有無や今後について)	
④認知症地域支援推進員との協働 (活動実例の有無や今後について)	
⑤若年性認知症コーディネーターとの協働 (活動実例の有無や今後について)	
⑥管内市区町村・団体等への希望大使、及び活動周知の方法等	
⑦大使の活動に関する依頼方法・手順等(窓口の有無、他)	
⑧大使活動への任命者(都県)側のサポート等の有(具体)・無	
⑨大使本人への活動に対する報酬の有・無	
⑩大使本人の活動に関する経費(交通費等)支払の有・無	

4. 希望大使活動の支援者・協力者について

①協力者・支援者の主な役割	
②大使活動への協力・支援に対する報酬の有・無	

③大使活動への協力・支援に関する経費(交通費等)支払の有・無	

5. 希望大使の事業効果と今後の展開・計画等について

①任命してよかったと思う点(希望大使の存在や活動によって、地域にどのような効果が生まれているか)	
②現在の課題、注力したい点	
③今年度(令和4年度)のこれからの展開(計画や予定)	
④次年度以降の方針やみとおし	

【別紙 希望大使に関する情報】

地域版認知症希望大使 ヒアリングシート別紙(個々の大使の方々に関する情報)

自治体名									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

* 以下、公表情報をご記入ください。(あらかじめ記入してある情報をご確認の上、可能な範囲で修正・追記願います)

No.	大使のお名前 (仮名・匿名でもかまいません)	性別	住まいのある 市区町村 (住所地は不要です)	任命・委嘱 年月日	任命・委嘱 時の年齢 (または年代)	任命・委嘱時の経過 (本人とのコンタクト～任命・委嘱までの 概ねの経緯等)	大使としての主な活動 (現時点で把握している情報でかまいません)	大使活動の 際の支援者・ 協力者の有 無	支援者・協力者の 立場 (本人との関係)
1									
2									

調査票② 希望大使未設置道府県調査票

令和4年度老人保健健康増進等事業「地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援に関する調査研究」 調査票

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

以下、認知症の人の本人発信支援、地域版希望大使（キャラバン・メイト大使）の任命等について、お尋ねいたします。（表中の回答行数や頁数が増えても差支えありません）

自治体名	
部署名	
ご担当者名	

1. 認知症の人本人が、自らの言葉や希望を持って暮らす姿を発信していくことへの支援 (本人発信)について

①	本人発信支援を目的に、自治体(道府県)として直接実施している事業について 有／計画中／無の該当をご記入の上、「有／計画中」の場合、事業の具体的な内容、及び委託先等もご記入ください。
有／計画中／無:	具体的な内容(既存の事業資料(要綱等)がありましたら、別途添付でも差支えありません)
事業の企画・実施に関して課題と感じていること(有／計画中／無、いずれの場合もご記入ください)	
②	本人発信支援を目的とした、管内市町村・団体への支援策等(協働形態を含む)について 有／計画中／無の該当をご記入の上、「有／計画中」の場合、事業の具体的な内容、及び委託先等もご記入ください。
有／計画中／無:	具体的な内容(既存の事業資料(要綱等)がありましたら、別途添付でも差支えありません)
支援策等に関して、課題と感じていること(有／計画中／無、いずれの場合もご記入ください)	

2. 本人発信活動等をしている本人情報の把握や、本人の認知症関連事業への参画について

①地域で活動している認知症の本人に関する情報や、その人の活動に関する情報の把握について把握の有／計画中／無の該当をご記入の上、「有／計画中」の場合、具体的な方法や活動内容等をご記入ください。	
有／計画中／無： 本人情報や活動情報の具体的な方法：	
情報の把握に関して、課題と感じていること(有／計画中／無、いずれの場合もご記入ください)	
②自治体(道府県)認知症関連事業への認知症の本人の参画(事業企画や実施・運営等への関わり)について有／計画中／無の該当をご記入の上、「有／計画中」の場合、当該事業内容、本人の具体的な役割についてご記入ください。	
有／計画中／無： 具体的な方法や活動内容：	
本人の参画に関して、課題と感じていること(有／計画中／無、いずれの場合もご記入ください)	

3. 地域版希望大使(キャラバン・メイト大使)の任命について

①任命について、あてはまるものひとつを回答欄にご記入ください。		
A:今年度(令和4年度)任命を予定 B:次年度以降、任命を予定 C:時期は未定だが、任命を検討している D:予定も検討もしていない	A~Dいずれかを ご記入ください。	A~D以外の場合、下欄にご記入ください。
②任命(計画)を進めるにあたり、管内で連携や協力を得たいと考えているところ、その主な理由を教えてください。 複数可【例】市町村(地域包括)、本人／家族の団体、認知症疾患医療センター、若年性認知症コーディネーター、事業者団体		
③任命(計画)を進めるにあたり、課題だと感じていることを教えてください。 いくつかある場合は、箇条書きをお願いします。		
④任命(計画)を進めるにあたり、知りたいこと・参考にしたいこと(こんな情報や事例が知りたい)を教えてください。 複数可【例】本人との接点作り、市町村／事業者団体との協議事項・進め方、募集・選任方法、任命までの具体的なプロセス		

設問は以上です。ご回答をありがとうございました。

調査票③ 希望大使設置都府県管内市町村等調査票

令和4年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援に関する調査研究事業

「〇〇県希望大使」の市町村事業関与・活動、及び地域における本人発信に関する調査 【埼玉縣市町村対象】

国の認知症施策推進大綱では、「認知症の人が生き生きと活動している姿は、認知症に関する社会の見方を変えるきっかけともなり、また、多くの認知症の人に希望を与えるものである」とされ、「全都道府県におけるキャラバン・メイト大使(仮称)の設置」、及び「全市町村における本人の意見を重視した施策の展開」が、認知症の本人からの発信支援施策として推進されています。

●本調査は、地域における本人発信の推進や本人の社会参画の促進を進めていく参考になる全国情報や資料を作成・提供することを目的として、現在キャラバン・メイト大使(希望大使等の名称で設置、名称は設置者によって異なる)を設置している都県内の市区町村事業への希望大使の参加・協働、及び地域の本人発信支援等の取組等について調査するものです。

ご多忙の時期に誠に恐縮ですが、調査に何卒ご協力くださいますよう、お願いいたします。

<ご記入上のお願い>

- 貴市区町村の認知症施策のご担当者が、ご記入くださいますようお願いいたします。
- 貴市区町村の今年度3月末までの取組みも含め、直近の状況をご記入下さい。
- 選択肢中心の設問となっております。(※回答に該当がない場合には、回答欄を空欄にせず、必ず「0(ゼロ)」とご記入下さい)

<調査票の返信のお願い>

本ファイルの「設問・回答票」シートにご記入いただき、下記まで、メール添付にて、直接お送り下さい。

- 送信先メールアドレス: res04@jdwg.org
- ご送付期限: 12月7日(水)

ご記入・ご返信のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

<情報の取り扱いについて>

- ・調査結果は、調査目的以外は使用いたしません。
- ・調査結果は、統計的に集約・解析し、報告書等では組織や個人が特定できないように十分留意をいたします。
- ・本調査表の返信をもって協力の同意とさせていただきます。

【実施主体・問い合わせ先】

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ(老健事業担当)

メール: office@jdwg.org

電話: 080-3524-8841

**「〇〇県希望大使」の市町村事業関与・活動、及び地域における本人発信に関する調査
【〇〇県市町村対象】**

貴自治体の概要をご記入ください

1	都道府県名	
2	市町村名	
3	認知症施策担当部署名(主となる部署)	

I.市区町村事業への「〇〇県希望大使」の参加・協働について

設問1 貴市町村の事業・取組みに、「〇〇県希望大使」が参加・協働したことがありますか。

下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入		回答欄
1	これまでに参加・協働したことがある	
2	今後、参加・協働する予定や計画がある	
3	予定や計画をしていない	

※設問1で「1」または「2」と回答した方に伺います。どのような機会・場ですか。

複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入		回答欄
1	認知症サポーター養成講座(関連研修含む、キャラバン・メイトとの協働)	
2	チームオレンジの研修や活動	
3	認知症カフェ	
4	本人ミーティング	
5	ピアサポート(おれんじドア等)	
6	家族支援事業(家族会・集い等)	
7	認知症地域支援推進員との協働(地域活動)	
8	若年性認知症コーディネーターとの協働(地域活動)	
9	介護、医療、福祉領域の専門職向け(事業者向け)研修会/講演会	
10	市民(住民)向け研修会/講演会	
11	自治体、地域包括支援センター等が行う認知症関連事業	
12	自治体等による地域づくり関連事業(多様な地域アクション)への参画	
13	認知症施策に関連する自治体の会議・委員会等への参画	
14	その他(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	

※設問1で「1」と回答した方に伺います。貴市町村の事業・取組みに、「〇〇県希望大使」や地元の本人が参加したことで、参加者や関係者にどのような反応がありましたか。

複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入		回答欄
1	認知症に対する関心が高まった	
2	認知症に対する考え方が変わった	
3	参加した本人の声を聞いたことで、認知症の本人に対する見方が変わった	
4	認知症の本人との関わり方のヒントを見つけた	
5	大使の活動がきっかけで、管内で具体的な地域活動が始まった(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	
6	地元の本人から、本人発信について前向きな声等があがった(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	
7	大使の活動がきっかけで、他の市区町村との交流が生まれた	
8	その他(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	

設問2 今後、自地域では、「〇〇県希望大使」にどんな事業等に関わってもらいたいですか。

複数回答：下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記		回答欄
1	認知症サポーター養成講座(関連研修含む、キャラバン・メイトとの協働)	
2	チームオレンジの研修や活動	
3	認知症カフェ	
4	本人ミーティング	
5	ピアサポート(おれんじドア等)	
6	家族支援事業(家族会・集い等)	
7	認知症地域支援推進員との協働(地域活動)	
8	若年性認知症コーディネーターとの協働(地域活動)	
9	介護、医療、福祉領域の専門職向け(事業者向け)研修会/講演会	
10	市民(住民)向け研修会/講演会	
11	自治体、地域包括支援センター等が行う認知症関連事業	
12	自治体等による地域づくり関連事業(多様な地域アクション)への参画	
13	認知症施策に関連する自治体の会議・委員会等への参画	
14	その他(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	

設問3 貴市町村の事業・取組みに、「〇〇県希望大使」が参加・協働することに関して、課題と感ずること、促進につながるアイデア等があれば教えてください。

回答欄

II. 自地域(市区町村)での本人発信について(「〇〇県希望大使」に限らず)

設問4 貴市町村では、自地域内で「本人発信」や「本人発信」につながる活動等を行っている人や取り組みを把握していますか。

下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入		回答欄
1	把握している	
2	把握していない	

※設問4で「1」と回答の方に伺います。どのような機会・場・方法で、把握していますか。

複数回答：下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記		回答欄
1	管内の地域包括支援センターを通じて、把握している	
2	管内の介護サービス事業者を通じて、把握している	
3	認知症地域支援推進員を通じて、把握している	
4	若年性認知症コーディネーターを通じて、把握している	
5	医療機関および認知症患者医療センターとの連携によって、把握している	
6	家族支援事業(家族会・集い等)を通じて、把握している	
7	本人からの相談等を通じて、把握している	
8	本人が参加する市町村事業等(認知症カフェ・本人ミーティング等)を通じて、把握している	
9	その他(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	

設問5 貴市町村では、現在、自地域内の本人とともに取り組んでいる事業等がありますか。

下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入		回答欄
1	ある	
2	ない	

※設問5で「1」と回答の方に伺います。自地域内の認知症の本人とともにどのような事業に取り組んでいますか。

複数回答：下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記		回答欄
1	認知症サポーター養成講座(関連研修含む、キャラバン・メイトとの協働)	
2	チームオレンジの研修や活動	
3	認知症カフェ	
4	本人ミーティング	
5	ピアサポート(おれんじドア等)	
6	家族支援事業(家族会・集い等)	
7	介護、医療、福祉領域の専門職向け(事業者向け)研修会/講演会	
8	市民(住民)向け研修会/講演会	
9	自治体、地域包括支援センター等が行う認知症関連事業	
10	自治体等による地域づくり関連事業(多様な地域アクション)への参画	
11	認知症施策に関連する自治体の会議・委員会等への参画	
12	その他(右の回答欄に「1」を記入し、下に具体的にご記入ください)	

設問6 自地域での「本人発信」の推進について、課題と考えていることを教えてください。

回答欄

設問7 今後、自地域の「本人発信」推進について、具体的な事業や取組みの計画等があれば教えてください。

回答欄

その他、希望大使や本人発信支援に関して、ご自由にご記入ください。

--

設問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

本ファイルは右欄のアドレスにご提出ください res04@jdwg.org

調査票④ 希望大使本人調査票（事例収集依頼）

（一社）日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)

〇〇県〇〇大使のみなさまへ

メッセージ、写真等のご協力をお願い

- いつも日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)の取組みにご協力いただきありがとうございます。
 - 現在、地域版希望大使の活動事例集と、大使の任命や今後の活動の参考となる手引きを作成中です。「地域版認知症希望大使の普及促進と活動支援に関する調査研究」（令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業）
 - この事例集・手引きは、これから任命をする道府県や、皆様の今後の活動に活かしていただくことを目的としています。
- ★みなさまに、メッセージ、写真等のご協力を、ぜひお願いいたします。
- ★協力するかどうかは、どうぞご自身でお決めください(任意)。

【ご提出をお願いしたい内容や方法など】

①内容	<ul style="list-style-type: none"> ○お名前(公開して OK のお名前を。仮名・匿名でもかまいません。) ○希望大使として任命をうけた都府県名 ○次に続く人へのメッセージ ○日々のご自分の暮らしの様子がわかる写真(簡単な説明も) ○大使としての活動やその写真(簡単な説明も) ○大使になったきっかけ、活動を応援したり、援助してくれる仲間 など <p>*添付の「能任智子さん(とうきょう認知症希望大使)」をご参考に。</p>
②ご提出方法・ 問合せ先	<ul style="list-style-type: none"> ○メッセージ、写真(写真の説明)を、メールで、JDWG事務局へ 2月10日(金)頃をめどにお送りください。 メールアドレス nwatanabe@jdwg.org *事務局で、PPT(パワーポイント)にレイアウトいたします。 ○送り方は、word、excel、メール本文に記載など、どの媒体でも結構です。添付の「能任智子さん」を参考に、PPTで作成して送っていただいても結構です。 *メールをご利用いただけない場合など、ご質問がございましたら JDWG 事務局へご連絡ください。 携帯電話 080-3524-8841(留守録メッセージ機能あり)
③ご提出のメッセージ・写真の活用について	<ul style="list-style-type: none"> ○JDWG が作成する事例集・手引き等に一部引用させていただきます。 ○ご提出のメッセージ・写真をお一人1枚のスライドにして、JDWGホームページの本事業該当ページに掲載させていただきます。(掲載前にご確認させていただきます)
④謝金について	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省老健事業規程に基づき、些少の金額ですが謝金をご用意させていただきます。 *大使ご本人、ならびに本件をアシストくださる方1名(おられる場合)

以上、どうぞよろしくお願ひいたします。

<ご参考>

「認知症本人大使『地域版希望大使』の設置について」
(令和2年3月24日老発0324第2号厚生労働省老健局長通知)(抄)

地域版希望大使の設置に関する基本的な考え方

1. 大使の名称

地域版希望大使の名称は、希望大使の前に都道府県名を付すものとする(例:北海道希望大使)。ただし、認知症の人やその家族、認知症の当事者団体等の意見も踏まえ、地域の実情に応じて、当該地域の高齢者や関係者が理解しやすい名称など独自の名称を定めることは差し支えない。

2. 大使の人選等

各都道府県知事は、公募や認知症の人本人や家族等の当事者団体、管内市町村からの推薦等の方法により地域版希望大使の候補者を募り、適任と認められた認知症の人を地域版希望大使として任命又は委嘱するものとする。地域版希望大使の人数、任期その他の地域版希望大使に関して必要な事項は各都道府県知事が定めるものとする。

3. 大使の用務内容

(1) 都道府県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力

都道府県が開催するイベント等での講演のほか、都道府県が発行する広報誌等への寄稿、2018年11月に一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループが表明した「認知症とともに生きる希望宣言」等の紹介その他の認知症に関する普及啓発活動を行っていただく。

(2) 認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力

地方自治体又は全国組織を持つ職域団体及び企業が実施する認知症サポーター養成講座の受講者の理解を深めることを目的に、キャラバン・メイトが講師を務める当該講座において、自らの体験や希望、必要としていること等を自らの言葉で語っていただく。

(3) その他都道府県が必要と認めた用務

(1)及び(2)に加えて、認知症に関する普及啓発のために都道府県知事が必要と認めた用務を行うものとする。

以上

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

地域版認知症希望大使の普及促進と
活動支援に関する調査研究事業
報 告 書

発 行：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ
<http://www.jdwg.org/>

令和5（2023）年3月